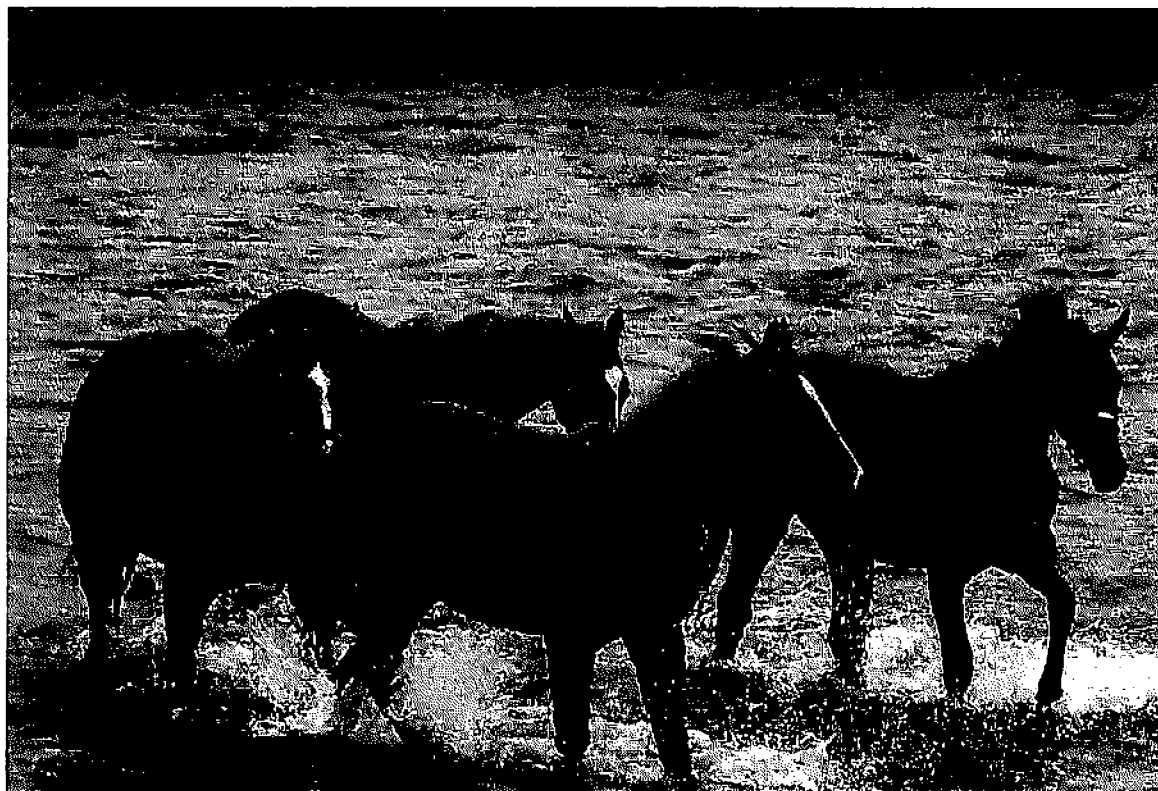


部 報

平成 12 年度

No. 46



北海道大学馬術部

馬術部賛歌

滝沢南海雄君作曲

♩ 4 80

はるきたれば だいちひかーる、

しろがねのえんざん ゆめほうぼうたり、

たからかにいきぞいなけ、われ

らしんめのほまれあり。

あるかぎり。ほくだいほくだい、お

おわがほこう、われらしんめのほまれあり。

馬術部賛歌 (昭和三十五年頃)

三浦清一郎君 作歌

- 一
- 春来たれば 大地光る
銀の遠山 夢々たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり
- 二
- 時来たれば 旗をかざせ
宵雲の旅路に 意気軒昂たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり
- 三
- 雲流れて 旅路遙か
青春の孤杖 泥濘はばめど
凜然と 進みて行かむ
駿馬のほまれあるかぎり
- 北大！ 北大！ お、我が母校
われら駿馬のほまれあり

お詫びと訂正

会計報告の中に誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

<支出の部>の合計金額

誤) 6,159,722→正) 8,482,150

会計報告 (2000年 1月～12月)

<収入の部>

部費		668,500
アルバイト	モモセ	834,800
	JRA開催	2,723,435
	朝日新聞社	17,700
	上田農園	665,450
	鷺田商店	645,050
	その他	446,500
競技会	半澤杯	127,646
	新緑馬術大会	465,218
	北海道馬術大会	939,417
	秋季北海道馬術大会	233,161
	その他	46,000
学馬連補助		2,101,400
寄付		170,000
その他		62,220
合計		10,146,497

<支出の部>

飼料	1,572,115
装蹄	1,338,000
薬品	760,297
馬備	189,716
作業	134,688
電話	221,166
輸送	2,322,428
車輛	800,672
文化	86,855
後援会	199,147
事務	138,180
雑費	96,056
登録	337,300
試合	285,530
合計	8,482,150

会計 吉川 幸江

目次

部長より一数は力、継続は力一

前主将より

活動状況

会計報告

戦績報告

OB 寄稿一知性とスポーツ一

馬匹紹介

卒部にあって

部員紹介

OB 名簿

現役部員名簿

広告のページ

編集後記

数は力、継続は力

北大馬術部部長 市川 瑞彦

部長に就任して以来、毎年部員諸君に季語のように言われてきたことは、「馬が足りない」ということである。これは練習馬の数がたりない、競技馬の数がたりないという二重の意味である。しかし、馬房の数に限りがあるという冷厳な事実や、いただいて入厩してきた馬が部で調教して競技馬として大成する確率が必ずしも高くはない(私の目が利かなかったことにも原因があるだろうが)現状では即座に解決できる問題ではない。いまいる馬が一年経つと「一斉に」一つ年をとるという当たり前だがこれまた冷厳な事実もあり、この問題はなんとも頭の痛い問題である。

ところが今年はなんと「馬が多すぎる」というのである。その理由は、競技馬の数が多すぎるという意味では勿論ないのだが、特に冬期間に部員が辞めたりして、14頭の馬を繋養管理していくのに困難だということである。しかし、考えてみると馬場がキャンパスの西北の隅に移転し、以前のようにすべての教養生の目に馬術部の存在が馬場・厩舎、放牧や練習風景を通して目に触れることがなくなったわりには、それでも毎年20人弱の新入部員が入ってきてくれている。これは、学部別の入学者選抜となり獣医学部などでは移行先が確定しているので、運動部に籍を置こうという余裕があることや、馬術部は北大のイメージにも合っており一度馬に乗ってみたいという学生が潜在的に一定数いることなどが影響しているように思うが、いずれにしてもありがたいことである。

一方、馬術部は運動部であり大会で団体としていい成績を残すことを大きな目標としている。したがって、すべての部員が選手として大きな大会に出場して活躍できるとは限らないのは当たり前だし、すべての部員がそれを望んでいるとも限らない。馬と接していることや(場合によっては関連した作業など)に多くの意義を見出している部員もいるのではないだろうか。私の感じとしては、途中で馬術部をやめてその後活き活きした学生生活を送っている人はそんなに多くはないように思う。継続できなかった負い目や後悔を抱えていくこともあるだろう。したがって、我々が目指すべきなのは、一方では部員としての規律を保持しながら、他方では一度志をもって入部してきた部員同士が、それぞれの目標と存在意義を互いに認め合い、支え合って「終わりを全うする」ことではないかと思う。練習・アルバイトなどの負担が極めて大きい現状では、部員としての規律との両立ができると軽易しく断定しかねるが、馬術部が抱えている近未来の問題として真剣に考えていく課題ではないかと考え、部員諸君に提起したいと思う。「少数精鋭」主義とよくいわれるが、精鋭はいいが少数では14頭の馬を維持してはいけないし、人生の大半を過ごすOB人生で仲間が少ないのはなんとも寂しいではないか。(2000.3.16)

<前主将より>

森田 崇之

全日も終わり現役から退いた今“あの時あのようにしていればよかったな”“あの考えかたは成功だった”“あれが失敗だったな”といったさまざまな回顧録が自分の頭の中で再生を繰り返している。そのような記憶を整理して、ここに記すことが自分の役目と分かっているものの、技術面については、自分は部報に書けるほどの独断的意見は持ち合わせていない。そこで、ここでは、今後の馬術部員としてのあるべき姿を重点的に、自分の現役時代の反省も踏まえた意見を述べさせていただく。

① 馬の扱い方

“馬の気持ちを優先して考える。”非常に当たり前のことであり、ここにこんなことを書く事自体馬鹿げている。と考えるOBの方々が大半であろう。しかし、そんな当たり前のことができなくなっているのが最近の現状だ。自分が下級生だったころ、2頭の馬をセン痛で死なせてしまった苦い思い出があったので、馬があつての馬術部という認識を部員に再認識してもらおうと、馬優先主義（ここでは馬に接している間は馬だけの事を考えるという概念で用いている）を自分が主将になってから最初の目標として掲げた。しかし、これがなかなか下級生には伝わらない。馬の後ろに平気で回ったり、引き運動で馬の前に立って歩かせたり、馬と馬を平気で近づけたり、といつ馬もしくは人が怪我をしてもおかしくない事を平気でやってのける。また上級生の一部もそんな事をやりだすのだから、下級生が真似するのも必然だ。徐々にそのような状況は改善する事ができ、幸いにも、自分が引き継いだ期間は、馬、人共に大怪我させる事無く過ごす事ができた。しかし、まだまだ馬の扱い方に対する認識が部員に伝わりきっていない。これでは、いつ大事故が起こっても何ら不思議ではないと思う。馬の扱い方に対する再認識を、下級生だけではなく、上級生を含め、話し合う必要があるのではないだろうか。

② コミュニケーション

OBと現役、ドンパ同士、上級生と下級生、それぞれ様々なコミュニケーションの形があるが、1年を通じ、これが馬術部全体的に思うように上手くできなかった。全ての形態に対する共通の反省として、意見が一方的になってしまったという事が言える。例えば、ある事象の考え方として、上級生がAを持っており、Bにそれを伝えるというケースを想定しよう理想的な形としては上級生がAという意見の正当性を示し、その中で下級生はAがなぜ正しいのかを深く考え、分からなければ上級生に聞き、とことんAの正当性を話してもらう事が部員としてのベストのコミュニケーションの形態だ。ところが今の馬術部では相反するケースが形成されつつある。上級生は何も考えず、先輩から引き継いだAは正しいと決め付け、それを下級生に押し付ける形で伝えようとする。ここで、下級生は疑問を持って然るべきはすが、聞き手の下級生も分からない事をうやむやにしてAという事象が正しいと認識してしまっている。ここで、両者に足りないもの、それは“Aがなぜ正しいかを考えるという作業”である。この作業を怠る事で、両者にとってAというものの考

え方に微妙な違いが生じる。これが世代間の考え方のコミュニケーションギャップを生じてしまうのである。さて、これを今の馬術部に当てはめるとどうなるか。簡単な例で言えば、諸先輩が積み重ねてきた調教方針がどうしてそのような形になったのかという正当性に対して世代間における考え方の違いが生じてしまうという例が主にあげられる。自分がそうであったように、昔の部報を読んだだけで物事を理解しようとする雰囲気は最近の馬術部には存在する。しかし、文章やうわべ面の会話だけでは事象の奥にある真の正当性の理解は得る事ができないという事を、各世代のOBの方々と話すたびに痛感した。両者が本当に納得するほどのコミュニケーションが今後の馬術部の課題ではないだろうか。そういった積み重ねが達成されたとき、初めて力の強い「北大ブランド」が確立できると思う。

③ 騎乗面

技術面では独断的意見は持ち合わせていないと文の初めに書いたのではあるが、ここでは最低限馬に乗ったら下級生・上級生全てに考えてもらいたい事を述べる。それは、「馬に真っ直ぐ乗る」ということである。これは、初めて馬に乗る人が最初に覚えるべき事であり、一方で3年半もの間馬術部で練習してきても1番難解な事だったと実感している。「真っ直ぐ乗る」ことはなぜ重要か。それは馬を効率的に動かすための原点であるからだ。「真っ直ぐ乗れる」ということは騎座の安定・脚の位置の安定・拳の安定につながり、その3点セットさえそろえば、やっと馬を自発的にコントロールする段階に至る。“こんな事誰でも知ってるよ”と嘆く人は多いだろう。でもその“こんなこと”が馬の鞍数が増えていくに従って、意識の中から徐々に省かれていっているような気がする。特に上級生に言えるかもしれないが、内方脚を使いすぎる事ばかりに重点を置き過ぎてしまう事で、この「真っ直ぐ乗る事」がデータから消去されつつあるのではないか。技術の上達の1番の近道は「馬に真っ直ぐ乗る事」が基本条件である事を現役のみんなには忘れないでもらいたい。

以上、はっきり言ってはっきり言って小学生並みの拙い文と内容になってしまったが、この3つは卒部した後、特に自分が感じた事である。本来、この前主将の欄では、1年間行ってきた調教方針等における反省を書くのが通例ではあるが、もう1度現役のみんなに基本的なことを再認識してもらいたい為故に、このような文章に至った。何から何まで頼りない主将ではあったが、主将としての自分を精一杯サポートしてくれた現役のみんなには感謝の気持ちで一杯である。これからも馬術部員として誇りを持って活動してもらいたい。

最後になりましたが私たちの代の間、多方面でサポートくださった市川部長をはじめ各OBの方々には大変お世話になりました。また松下さんにはお忙しい中、技術面で御指導していただき本当に感謝しています。各皆様、これからも御指導・御鞭撻のほど宜しくお願い致します。

<主将>

杉山 賢治

現状

現在の部員数は19人(3年2人,2年6人,1年10人)です。馬匹は13頭です。このように上級生が2人と少ないことが今年度の特徴としてあげられ、今シーズンの北日本や全日本は例年以上に、下級生に任していく比率が高くなっています。

このことに関しては長期的視野に立ってみても様々な利点や弊害があるものと考えています。その一つとして「来年の権利獲得可能性は別として(下級生だから権利ウンメンはナンセンスだと考えます)」利点は下級生の時期から北日本や全日本を念頭に置き練習することで、経験と技術が早いうちから鍛えられる。これは疑いようのないことであると思います。しかし新馬調教と下級生指導(1年目)にしわ寄せがいつていることも事実です。部員数が多いことにより常に馬を目にかけてあげられることが、常に馬に触れることで人に対する信頼関係を築くことができることが、学生馬術の利点であります。それに対しての不十分さにも不安が残ります。また新馬調教に関しOBに依存する面が高くなっています。

馬匹

馬匹について、今年度は主戦馬7頭、次期主力馬3頭、新馬3頭となっています。主戦馬は昨年の権利獲得馬である北疾風(トルネード),北凌(レジェンド),北斗(ユウログレイ)以上3頭と北蘭(ヒダカ),北鈴(スズロード),北蒼(ブルー),リッチステートの4頭、計7頭が挙げられます。次期主力馬として北璧(ゲネシス),カッティングダーク,北祥(スピリット)。新馬は北陽(ドリームグリーン),ファンキーバブル,シュネルです。

現在頭数としてはそろっているのではないのでしょうか。問題としては

- ① 高齢馬が多いこと。
- ② 各馬安定感にけること。
- ③ 底辺がまだ浅いこと。

これらは各馬の安定性の欠如は乗り変わりがスムーズに行われていないためであることも要因のひとつであると感じています。前騎乗者からの引継ぎ時の馬のレベルを保ったまま引継ぎ、次に向かいさらに高めることが理想であり、それには騎乗者にそれなりの技術が要求されるものです。実際には下級生に引き継ぐ訳ですから、人の技術力の底上げが大切であると思います。今シーズンはその面でも下級生の技術をいかにレベルアップさせるかも重点課題のひとつです。

中堅や新馬について不安があります。今後は新馬の調教のプロセスが明確にできればと思っています。調教者が目安とするべきものが残されていれば今後の調教においても一助

となるのではないのでしょうか。

活動全般について

練習面は、馬の引継ぎの問題とも関わるのですが、他大学より下級生の技術が見劣りしていることは前から指摘されてきました。今年度も考えていかなければならない問題であると思います。以前より部班による練習を取り入れてきましたが、それをマンネリ化しないよう、障害部班なども取り入れ、最大限の効果を発揮できるように考えていきたいと思っています。

その他にも基本的には各個各馬で練習しているため、自分のことに精一杯になり、他の馬や人に対するアプローチが以前より減ってきていることも問題としてあげられます。チームメイトによる助言という良い機会や結果を逃していることになるため、そのことを認識し以後の活動には効果的に役立てて生きたいと考えています。最近ではチーフ・馬責を含め、騎乗ミーティングを毎週開き、互いに意見交流・議論の場としています。

その他にも、人数が少ないにも関わらず、多いときには日に複数のアルバイトが入るため個人の負担が増加していることもあげられます。この点についても今後考えていかなければならないと思っています。

目標と指針

クラブ活動として行っていく上で、勝つこと成績を残すことは大前提であると思います。しかし、勝つことの意味には多くの物が含まれていると考えます。短期的には、各自各馬が権利を得ること。団体として成績を残すこと。長期的には後輩につなげる馬にすること。新馬を育成すること。下級生が良い経験をし育つことなど様々なことがあげられます。先輩から言われたことですが、“強い”チームを作りたいと考えています。上手い選手、良い馬を作ることも重要ですが、チーム全体に活気を持たせたいと思います。強いチームを作ることは身近なものから行っていけば達成できると考えます。個人競技として個人や各馬の技術・才能も大切で重要であります。それより一人一人の少しずつの積み重ねにより、チーム全体を強くしていくことは、結果的に上手い選手や馬の育成につながるのではないかと思います。抽象的ではありますが、このことを念頭に新しいシーズンを迎えたいと思っています。

<副将>

加藤 幸作

今期は馬匹 14 頭、部員 19 名と人が少ないため一人一人にかかる負担、責任は大きくなる。しかし忘れてはいけないのはやらされているのではなく自分がやりたいからやっているということだと思う。いつもどこかで逃げ道や妥協を探しているのでは馬術部は続けれない。しっかり前を向いて自分は何をするべきかを考えて一人一人が活動すれば、心の中にも馬に乗る事を楽しむゆとりができて個人として又、部として強くなっていけると思う。人数の少ない今シーズン、練習を見ていただける OB の方たちが少なくなってしまう来シーズンを見据えて、馬術部の雰囲気盛り上げていこう。

<主務>

国井 千恵子

最上級生が2人となることがほぼ決定していたため、2年目のはじめころから主務につくことを見据えて大会運営を手伝っていました。その特訓期間と前主務畔柳兄のご助力もあり、主務としての最初の大仕事である秋季馬術大会の運営は何とかこなすことができました。しかし、忙しかったシーズンの終わった今となり、自分を見つめてみると、主務という部内外に対して大きな責任を持つ幹部職についているわりに自分はあまりにも未熟なのではないかとしみじみ思います。来シーズンは北日学の主管もあり、特に責任重大なので、比較的時間のあるシーズンオフの間に自らを鍛えて、責務を果たしていきたいと思っています。OB その他お世話になっている方々のご好意にすぎることもあるかもしれませんが、よろしくお願いします。

<後援会>

吉川 幸江

OBの方々と交流を深めていく事がこの役職の務めですが、全国各地に散らばっているため、現役とOBのつながりを保っていく事は難しいというのが現状です。

現役とOBのつながりの場として、年に数回のコンパ、OB戦や初乗りを行っています。また平成6年卒の倉本さんが北海道大学馬術部後援会ホームページ(<http://www4.bng.or.jp/~nono/hokudai/>)を開設して下さい、たくさんのOBの方が参加してくださっています。競技会戦績なども速報として見る事ができますので、インターネットをされている方はぜひ開いてみてください。

1年間、後援会という役職から馬術部を見てきて、この部活はあらゆる面でOBに支えられて成立しているのだと感じました、馬場が移転して2年が過ぎましたが、まだ安定していない面も多いため何かとお世話になる事も多いと思いますが、宜しく願い致します。

<会計>

吉川 幸江

今年は、例年のアルバイトに加え、上田農園バイト、鷺田商店バイトが加わり、収入は増えています。しかし、トラクターや馬運車の修理代が多くなっている事と、来年の北日学がノーザンホースパークで行われるため馴致にかかる費用、そして今年は帯広にも何回か馴致に行く事になっているため、輸送費が増えると予想されます。また、馬場がまだ安定していないため、砂を足したり工事が必要になる事と思います。

部員の会計に対する意識を高めると共に是非とも、OBの方々からのご理解とご支援を賜りたいと思います。

<馬匹>

山本 裕己

馬匹として何をすべきか。それは、部員全員が馬の身体的・精神的な健康とそのちょっとした変化、それに影響を与える可能性のあるちょっとした要因に対してより敏感になるように導いていくことだと考えている。

新馬や高齢馬が多く、部員が少なく馬が多いという現状、学校から遠いため何かあったとき発見が遅れてしまう可能性などを考えると、危険の起こりやすい状況にあるといえる。だからこそ、なおさら、起こりうる可能性のある事態を予測し、未然に防ぐことが重要である。

すべての馬が心身ともに健康な状態で本番を迎えることが出来るよう、皆で考えていきたい。

会計報告（2000年1月～12月）

<収入の部>

部費		668,500
アルバイト	モモセ	834,800
	JRA開催	2,723,435
	朝日新聞社	17,700
	上田農園	665,450
	鷺田商店	645,050
	その他	446,500
競技会	半澤杯	127,646
	新緑馬術大会	465,218
	北海道馬術大会	939,417
	秋季北海道馬術大会	233,161
	その他	46,000
学馬連補助		2,101,400
寄付		170,000
その他		62,220
合計		10,146,497

<支出の部>

飼料	1,572,115
装蹄	1,338,000
薬品	760,297
馬備	189,716
作業	134,688
電話	221,166
輸送	2,322,428
車輛	800,672
文化	86,855
後援会	199,147
事務	138,180
雑費	96,056
登録	337,300
試合	285,530
合計	6,159,722

会計 吉川 幸江

YAMAWA

お酒と米のことなら

(株) 今 鷺 田 商 店

札幌市豊平区美園3条4丁目(バス停前)

電 話 (代) 821-6248

■フリーダイヤル 0120-431045

よいさけとよいこめ

<戦績報告>

◆対東北大定期戦（於 北海道大学 4月2日）

参加選手 大久保 加藤 堀内

優勝 北海道大学

◆第28回半澤杯記念馬術大会（於 北海道大学 5月3、4日）

●一般馬場馬術第2課目<市川杯>

			得点率
1位	千葉	フロンテアRC	ドリアングレイ 59.2%
2位	千葉	フロンテアRC	レオン 56.3%
3位	駒野	JRA函館競馬場	ノスタルギ 54.8%
6位	山口	北大(2)	北陽 51.4%
7位	浜田	北大(4)	北陽 51.0%
10位	杉山	北大(3)	北牙 44.1%
11位	森田	北大(4)	北祥 44.0%
12位	加藤	北大(2)	北旋風 43.3%
13位	吉川	北大(2)	北牙 43.0%
14位	竹本	北大(3)	北蘭 41.7%
14位	国井	北大(2)	北凌 41.7%
18位	畔柳	北大(4)	メロンパワ 40.2%

●複合馬術競技<太秦杯>

			馬場減点	障害減点	総減点
1位	長田	北大(4)	北鈴 73.20	0.25	73.45
2位	長田	北大(4)	北蒼 79.20	0	79.20
3位	赤間	酪農学園大	緑天鳳 81.80	5	86.80
4位	井口	北大(4)	北斗 84.00	15	99.00
5位	森田	北大(4)	北旋風 85.80	32.46	108.26

●中障害飛越競技<半澤杯>

			減点
1位	小野	RCメインフィーズ	エルグレイ 0
2位	高橋	JRA札幌競馬場	インディア 4
3位	高橋	JRA札幌競馬場	リトオブリーター 5.25
4位	森田	北大(4)	北旋風 12

●小障害飛越競技<河田杯>

			減点	JumpOff
1位	立林	JRA札幌競馬場	リトオブリーター 0	0
2位	菅野	JRA札幌競馬場	ダイミクハート 0	0
3位	小山	JRA札幌競馬場	フータレス 0	0
7位	竹本	北大(4)	北蘭 0	4
15位	山本	北大(3)	北旋風 4	

●新人新馬飛越競技<小池杯>

			減点
1位	小野	RCメインフィーズ	スリービット 0
2位	大江	JRA札幌競馬場	パンエイバート 0
3位	雨下	JRA札幌競馬場	マイネルインブル 0
11位	杉山	北大(3)	北鈴 0
25位	犬飼	北大(2)	北鈴 8
26位	山本	北大(3)	北凌 8
28位	川崎	北大(5)	カッティングターク 12
29位	杉山	北大(3)	北牙 17.25
OPEN	森田	北大(4)	北祥 0

◆三大学定期戦（於 北海道大学 5月14日）

参加選手 奥村 堀内 山口
使用馬匹 北旋風 北鈴 グレンエトワール
優勝 帯広畜産大
2位 酪農学園大
3位 北海道大

◆第14回北海道新緑馬術大会（於 ノーザンホースパーク 5月27、28日）

●一般馬場馬術第2課目＜A班＞

			得点率
1位	小林 浦河乗馬クラブ	ボンスシャンス	61.9%
2位	萩野 ビクトリーライティングC	ハイブーン	58.7%
3位	矢作 ノーザンホースパーク	エアジョーダン	57.8%
6位	金丸 北大（5）	北陽	53.5%
9位	小野 北大（3）	北陽	46.8%

●一般馬場馬術第2課目＜B班＞

			得点率
1位	草島 フロンティア乗馬クラブ	トリアンクレイ	56.2%
2位	稲垣 フロンティア乗馬クラブ	トリアンクレイ	52.4%
3位	森川 ノーザンホースパーク	エアジョーダン	51.0%
5位	木村 北大（1）	北蒼	47.0%
6位	犬飼 北大（2）	北陽	45.1%

●一般ツースター総合馬術競技馬場馬術課目

			得点率
1位	城 帯広畜産大	柏雲	56.3%
2位	海川 酪農学園大	トニーザプリンス	53.3%
3位	小守 オーフホースコミュニ	童梨夢	52.9%
7位	森田 北大（4）	北旋風	50.5%
10位	長田 北大（4）	北鈴	49.2%
12位	井口 北大（4）	北斗	48.3%
14位	山本 北大（3）	北凌	46.9%

●一般L級B標準障害飛越競技＜初心者一般の部＞

			減点	JumpOff
1位	高橋 ノーザンホースパーク	リュートハーモニー	0	0
2位	飯野 ノーザンホースパーク	ジャストアドラマ	0	0
3位	太田 ノーザンホースパーク	リュートハーモニー	0	0
11位	杉山 北大（3）	北牙	4	

●一般L級B標準障害飛越競技＜新馬の部＞

			減点
1位	黒野 ノーザンホースパーク	アトマインジスカ	0
2位	鈴木 酪農学園大	タカホシ	3.25
3位	川崎 北大（5）	カッティングスターク	8

●一般L級A標準障害飛越競技＜一般の部＞

			減点
1位	松山 ノーザンホースパーク	ワンポイント	0
2位	岩坪 モモセライティングファーム	シンボリラスベガス	0
3位	竹本 北大（4）	北蘭	0

◆第35回北海道春季馬術大会（於 ノーザンホースパーク 6月17、18日）

●一般馬場馬術第2課目＜A班＞

	順位	騎手	所属	得点率
1位	萩野	ビクトリー・インク C	ハイベーン	60.6%
2位	矢作	ノーザンホースパーク	エスカイパー	57.6%
3位	谷口	フロンティア乗馬クラブ	アバランシー	55.4%
8位	畔柳	北大（4）	メロンハマー	48.9%
10位	堀内	北大（2）	北陽	47.3%

●一般馬場馬術第2課目＜B班＞

	順位	騎手	所属	得点率
1位	橋内	ノーザンホースパーク	エアジョーダン	55.7%
2位	荒井	ノーザンホースパーク	アロンソン	54.8%
3位	阿部	十勝柏友会	シェリー	54.1%
7位	小野	北大（3）	メロンハマー	49.8%
11位	岩波	北大（2）	北陽	46.3%

●一般M級C標準障害飛越競技

	順位	騎手	所属	減点	JumpOff
1位	小野	R Cメインフィーズ	エルクレイ	0	0
2位	加藤	帯広畜産大	柏嶺	0	0
3位	村上	札幌乗馬倶楽部	ミストロシー	0	0
19位	森田	北大（4）	北旋風	4	

●一般L級B標準障害飛越競技＜初心者・一般の部＞

	順位	騎手	所属	減点	JumpOff
1位	伊藤	帯広畜産大	柏海	0	0
2位	因幡	十勝柏友会	アトラス	0	0
3位	箱崎	帯広畜産大	柏嶺	0	0
6位	木村	北大（1）	北蒼	0	4

●一般L級B標準障害飛越競技＜新馬の部＞

	順位	騎手	所属	減点	JumpOff
1位	鈴木	酪農学園大	ウニシキ	0	0
2位	鈴木	酪農学園大	タホシ	0	4
3位	清水	酪農学園大	タホシ	4	
OPEN	長田	北大（4）	北鈴	4	
	尾崎	北大（5）	北磐	3反E	

●一般L級A標準障害飛越競技

	順位	騎手	所属	減点	JumpOff
1位	高橋	J R A札幌競馬場	ダイクミックハート	0	0
2位	藤田	十勝柏友会	オレンス	0	0
3位	高橋	J R A札幌競馬場	フーダレス	0	0
17位	竹本	北大（4）	北蘭	4	
22位	杉山	北大（3）	北牙	4	
36位	山本	北大（3）	北凌	4.25	
	長田	北大（4）	北鈴	3反E	
	井口	北大（4）	北斗	落馬E	

●一般Lクラススピードアンドハンディネス障害飛越競技

	順位	騎手	所属	走行秒
1位	松山	ノーザンホースパーク	ワンポイント	63.48
2位	林	十勝柏友会	アトラス	65.24
3位	松山	ノーザンホースパーク	フクロイマー	65.95
26位	竹本	北大（4）	北蘭	89.03

◆第72回北日本学生馬術選手権大会（於 ノーザンホースパーク 7月2日）

参加選手 森田 長田

●一回戦

	競技馬	得点率
1位 城 帯広畜産大		54.2%
2位 赤間 酪農学園大		53.6%
3位 森田 北大（4）	バーボンカントリー	47.0%
4位 南波 東北大		45.0%

●一回戦

	競技馬	得点率
1位 長田 北大（4）		56.5%
2位 木戸 岩手大		55.2%
3位 吉成 北里大	ヴァルケイノ	48.5%
4位 小松 東北大		47.3%

●準決勝

	競技馬	得点率
1位 薮 帯広畜産大		57.4%
2位 長田 北大（4）		57.0%
3位 木戸 岩手大	エースイザー	56.7%
4位 城 帯広畜産大		52.4%

●決勝

	優勝	2位	3位	4位	馬場	得点率	馬場得点	障害得点	総得点
	長田 北大（4）	赤間 酪農学園大	薮 帯広畜産大	和田 酪農学園大	馬場	49.3%	562	-4	558
					ジャンプ	47.5%	540	-14	526
					障害	47.4%	541	-28	513
					ジャストドラマ	44.6%	508	0	508

◆第25回北海道馬術大会（於 ノーザンホースパーク 7月15、16日）

●一般馬場馬術第2課目

	得点率
1位 吉内 帯広畜産大	55.7%
2位 平木 ノーザンホースパーク	55.4%
3位 大塩 ノーザンホースパーク	54.9%
8位 畔柳 北大（4）	47.5%
11位 吉川 北大（2）	42.5%

●一般馬場馬術第3課目＜A班＞

	得点率
1位 小林 浦河乗馬クラブ	53.6%
2位 小守 オールホースコミュニ	53.2%
3位 曾我 ノーザンホースパーク	53.0%
15位 山本 北大（3）	45.7%

●内国産障害飛越M級C競技

	減点	JumpOff
1位 川北 ノーザンホースパーク	0	0
2位 川北 ノーザンホースパーク	0	0
3位 高野 十勝柏友会	0	4
17位 森田 北大（4）	11.5	
26位 竹本 北大（4）	25	

●L級A障害飛越競技<一般の部>

			減点	JumpOff
1位	アタムクハート	白井牧場不二ファーム モーラルビクター	0	0
2位	吉田	JRA日高育成牧場 ジョウカール	0	0
3位	阿部	十勝柏友会 シェリー	0	0
17位	井口	北大(4) 北斗	4	
22位	長田	北大(4) 北蒼	4	
36位	長田	北大(4) 北鈴	4.25	
	山本	北大(3) 北凌	3反E	

●L級B障害飛越競技<初心者一般の部>

			減点
1位	原	酪農学園大 フェザントカレン	0
2位	下田	十勝柏友会 トカチアトラス	4
3位	黒野	ノーザンホースパーク アトマイヤシス	4
OPEN	杉山	北大(3) 北牙	0

●L級B障害飛越競技<新馬の部>

			減点	JumpOff
1位	林	十勝柏友会 エックスオー	0	0
2位	池戸	北星乗馬クラブ プリシラ	0	0
3位	村上	札幌乗馬倶楽部 プリシラ	4	
5位	川崎	北大(5) カッティングダーク	12	

●内国産スピードアンドハンディネスC競技

			走行秒
1位	輪島	ノーザンホースパーク プリンスファイター	65.41
2位	アタムクハート	白井牧場不二ファーム シャイン	65.42
3位	阿部	北海道エンデュランス協会 メトウクリーク	67.97
18位	森田	北大(4) 北旋風	135.87

●内国産障害飛越決勝M級C競技

			減点	JumpOff
1位	川北	ノーザンホースパーク ガーウェイ	0	
2位	林	ノーザンホースパーク トカチアトラス	4	
3位	阿部	北海道エンデュランス協会 メトウクリーク	4	
	森田	北大(4) 北旋風	3反E	

●Lクラススピードアンドハンディネス障害競技

			走行秒
1位	Philip Honeywill	早田牧場乗馬倶楽部 プリージング	59.46
2位	久保田	十勝柏友会 フラッシュ	63.94
3位	早田	早田牧場乗馬倶楽部 ミナツキ	64.32
11位	井口	北大(4) 北斗	75.51
15位	竹本	北大(4) 北蘭	82.33
20位	山本	北大(3) 北凌	87.68
22位	長田	北大(4) 北鈴	101.04
	長田	北大(4) 北蒼	落馬E

◆第36回北日本学生馬術大会（於 福島県原町市馬事公苑 7月3～8日）

●学生賞典障害飛越競技

			1 走目	2 走目	総減点
1 位	城 希	帯広畜産大	柏雲	0	4
2 位	加藤 希	帯広畜産大	柏嶺	4	8
3 位	藤田 希	酪農学園大	緑天鳳	8	20
4 位	吉内 希	帯広畜産大	零	8	24
5 位	喜多 希	岩手大	パリアント	19	27
6 位	薮 希	帯広畜産大	柏海	12	28
7 位	森田 希	北大（4）	北旋風	16	36
8 位	南波 希	東北大	グレースカップ	15	38
9 位	木戸 希	岩手大	ウラン	23	51
10 位	清水 希	酪農学園大	緑澄	31	54.25
11 位	井口 希	北大（4）	北斗	20.25	54.75
13 位	竹本 希	北大（4）	北蘭	46.75	66.75
	杉山 希	北大（3）	北牙	3 反 E	3 反 E

●学生賞典総合馬術競技

典総合馬術競技				調教減点	耐久減点	余力減点	総減点
1 位	城	帯広畜産大	柏雲	105.7	0	5	110.7
2 位	加藤	帯広畜産大	柏嶺	122.0	1.6	5	128.6
3 位	薮	帯広畜産大	柏海	130.3	0	10	140.3
4 位	山本	北大（3）	北凌	123.0	9.6	10	142.6
5 位	小沼	帯広畜産大	柏明	117.3	13.2	15	145.5
6 位	和田	酪農学園大	緑華	125.0	24.4	10	159.4
7 位	藤田	酪農学園大	ノーティ・エルク	130.0	29.6	20	179.6
9 位	長田	北大（4）	北蒼	121.3	20	49	190.3
	長田	北大（4）	北鈴	129.3	73.2	3 反 E	
	井口	北大（4）	北斗	121.7	46.8	棄権	
	森田	北大（4）	北旋風	123.3	48.8	棄権	

●第3課目馬場馬術競技

競技馬場馬目				得点率
1 位	井上	岩手大	リブラ	55.5%
2 位	庄司	岩手大	オリエンタ	54.1%
3 位	脇坂	東北大	雷杜	53.2%
15 位	浜田	北大 (4)	北陽	41.3%

●新人新馬障害飛越競技

馬障害飛越競技				減点
1 位	浜田	北大 (4)	北蘭	3.25
2 位	木村	北大 (1)	北磐	4
3 位	及川	岩手大	パリアント	4
7 位	国井	北大 (2)	北蘭	8
8 位	森田	北大 (4)	北磐	9.5
15 位	堀内	北大 (2)	北蒼	14.5
19 位	小野	北大 (3)	カッティングターク	19.75
	吉川	北大 (2)	北牙	障害間E
OPEN	杉山	北大 (3)	北牙	19.5

◆第47回北海道体育大会兼第55回国民体育大会馬術競技北海道ブロック大会（於 ノーザンホースパーク）

●一般馬場馬術第2課目					得点率
1位	大塩	ノーザンホースパーク	ブロンソン		54.3%
2位	稲垣	フロンティア乗馬クラブ	トリアンクレイ		51.4%
3位	後藤	浦河乗馬クラブ	ダイヤモンド		51.0%
7位	角田	北大（2）	メロンハワー		46.8%
8位	岩波	北大（2）	メロンハワー		45.4%

●一般馬場馬術第3課目					得点率
1位	小林	浦河乗馬クラブ	ボンシジャンス		59.0%
2位	大城	オールホースコミュニケーション	童梨夢		54.8%
3位	佐柄	旭川乗馬倶楽部	ダイヤモンド		53.2%
7位	浜田	北大（4）	北陽		51.3%
8位	山本	北大（3）	北陽		49.1%

◆第14回北海道秋季馬術大会（於 ノーザンホースパーク）

●一般馬場馬術第2課目＜A班＞					得点率
1位	多田	モセライディングファーム	クルーク		54.8%
2位	釣田	帯広畜産大	ウインザウイン		53.7%
3位	荒井	ノーザンホースパーク	ブロンソン		53.2%
6位	奥村	北大（2）	メロンハワー		49.8%
6位	木村	北大（1）	北彗		49.8%
13位	大久保	北大（2）	メロンハワー		42.1%

●一般馬場馬術第2課目＜B班＞					得点率
1位	大塩	ノーザンホースパーク	エアジューダ		57.9%
2位	館谷	モセライディングファーム	セレス		55.4%
3位	奥原	オールホースコミュニケーション	フロッピーイーランド		52.1%
3位	高橋	帯広畜産大	柏雲		52.1%
5位	犬飼	北大（2）	北鈴		49.8%

●一般馬場馬術第3課目＜B班＞					得点率
1位	佐藤	JRA札幌競馬場	キウワノーザン		58.3%
2位	工藤	ノーザンホースパーク	サンダンス		55.5%
3位	中山	ノーザンホースパーク	アレジオン		53.5%
4位	山本	北大（3）	北凌		46.4%

●L級A標準障害飛越競技＜一般の部＞					減点	JumpOff
1位	村田	帯広畜産大	柏嵐		0	0
2位	畠山	帯広畜産大	柏嵐		0	0
3位	杉山	北大（3）	北蘭		0	0
7位	山本	北大（3）	北凌		0	4

●L級B標準障害飛越競技＜一般の部＞					減点	JumpOff
1位	岩坪	モセライディングファーム	岩竜		0	0
2位	藪信	千代田牧場	シナバー		0	0
3位	高橋	JRA札幌競馬場	マイネルインブル		0	0
16位	井口	北大（4）	リッチスタート		4	
19位	長田	北大（4）	北鈴		4	
	杉山	北大（3）	北蒼			落馬E

●L級B標準障害飛越競技＜新馬の部＞					減点	JumpOff
1位	因幡	十勝柏友会	レオン		0	4
2位	鶴見	JRA札幌競馬場	マイネルインブル		0	7
3位	川崎	北大（5）	カッティングダーク		4	
7位	尾崎	北大（5）	北彗		4.25	

●一般標準障害飛越M級C競技

			減点	JumpOff
1位	Clare Honeywill	早田牧場乗馬倶楽部	0	0
2位	早田	早田牧場乗馬倶楽部	0	0
3位	川北	ノースホースパーク	0	4
17位	森田	北大(4)	4	
26位	井口	北大(4)	18	

●新馬競技

			減点	JumpOff
	木村	北大(1)	0	0
		北磐		

◆第21回山下杯・河田杯記念馬術大会(於 酪農学園大学 10月9日)

●L級A標準障害飛越競技

			減点	JumpOff
1位	安田	酪農学園大	0	0
2位	高橋	酪農学園大	0	0
3位	市橋	酪農学園大	0	0
5位	尾崎	北大(5)	0	4
6位	杉山	北大(3)	0	7.5
OPEN	木村	北大(1)	8	

●L級B標準障害飛越競技

			減点	JumpOff
1位	山口	北大(2)	0	0
2位	志水	酪農学園大	0	0
3位	山岸	岩手大	0	0
	加藤	北大(2)		
	国井	北大(2)		

●ジムカーナ競技

			減点
1位	斎藤	酪農学園大	0
2位	山本	酪農学園大	0
3位	吉田	酪農学園大	0
4位	寺島	北大(1)	0
11位	大塚	北大(1)	2.75
13位	山本	北大(3)	3.25
15位	武井	北大(1)	6.50
18位	岡村	北大(1)	9.50
20位	高島	北大(1)	10.5
21位	亀岡	北大(1)	10.5

◆第50回全日本学生馬術競技大会(於 JRA馬事公苑 11月1日～5日)

●学生賞典障害飛越競技

			1走目	2走目	JumpOff	総減点
1位	楠木	明治大	0	0	0	0
2位	岡部	東京農業大	0	0	0	0
3位	真下	専修大	0	0	経路E	
3位	岡田	天理大	0	0	経路E	
	森田	北大(4)	3反E			
	井口	北大(4)	28	棄権		

●学生賞典総合馬術競技

			調教減点	耐久減点	余力減点	総減点
1位	草薙	明治大	88	0	5	93
2位	石井	日本大	94	0	0	94
3位	池添	明治大	90	0	5	95
	山本	北大(3)	155	3反E		

◆第72回全日本学生馬術選手権大会（於 JRA馬事公苑 11月25日）

●一回戦（Bブロック）

	競技馬	得点率
1位 島	京都産業大	58.33%
2位 木村	立命館大	50.15%
3位 長田	北大（4）	47.27%
4位 朝野	関西学院大	46.36%

き よ た

やきとり 居酒屋

ボリューム満点！コンパ150名様までOK！

札幌市北区北17条西5丁目北向き

当店誕生日、ご利用の方には
カラー写真・粗品をさしあげます。

TEL 011-747-7000

チキンをどうぞ

モ モ セ

札幌市清田区美しが丘3条3丁目

TEL 881-0470

知性とスポーツ

昭和46年度卒 松井 亮

今季、久々に小栗先輩が試合を見に来られた。いろんな話の中で「北大生が一番体が硬いように見える。」という感想があった。勿論、畜大、酪農大と比較してのことである。私は「恐らく受験競争が一番厳しいからではないか。」と答えた。一人一人の運動神経と柔軟性が勉強漬けの生活で鈍ってしまったのか、もともと運動の不得手な学生が集まったのか定かではない。私の中学時代に「勉強の仕方」なる本を読んでいたら「勉強ばかりしているとケガをし易くなる」という文章があり、印象に残っている。だが勉強が悪いわけではない。発育期には、体が大きくなるのに筋力や平衡感覚が未発達であればケガもし易くなるだろう。頭だけでなく体もよく動かして基礎的な筋力、持久力、平衡感覚やいろんな運動能力を養ってゆくのがバランスのよい成長と言えるだろう。近年、健康志向も手伝ってスポーツ人口は増加してきた。しかしマスコミではスポーツの華やかな面や結果だけが強調されているように思う。運動能力は優れているが知性も品性も低いような選手もよく見られる。オリンピックにおいても薬物使用は後をたたない。「スポーツが金になる」という一面がスポーツ本来の姿をゆがめ、結果を追いつめる傾向になったと思う。オリンピックはもともとアマチュアスポーツの祭典であった。クーベルタンの「健全なる精神は、健全なる肉体に宿る」という言葉を昔教わったものだが、彼が強調したいのは「健全な肉体だけでなく、健全な精神をもて！」ということだったということの後になって聞いた。

馬術はどうであろう。アトランタオリンピックを観に行った人の話である。観覧席で外国人が「日本人というのは金に任せて高い馬を買ってオリンピックに参加して見下げたものだ。」と軽蔑していたそうである。勿論、英会話のできない多くの日本人客には分からなかったことであろう。しかし、これが安易に結果を求める日本の馬術に対する客観的な評価なのだ。今回のシドニー大会でも相変わらず多くの輸入馬を使っている。更に日本代表選考会はヨーロッパで行われた。つまり、あらかじめ欧州遠征をしていた者しか実質的には参加できないわけである。たとえ強化選手、候補選手になれたとしても長期海外遠征などできるのは大手乗馬クラブの子弟かJRA職員ぐらいであり、他の一般選手にとってはオリンピックは無縁のものである。こんな不公平なことをやっているスポーツは馬術だけである。日本で選考会をやれば、金も暇もなくて実際オリンピックの行けない選手でも大勢参加するだろうし、今回の代表に勝つ人馬が出るかもしれない。競技会としても当然盛り上がるだろう。馬術の普及や観客の増加を本当に考えているのならそうすべきであろう。一方馬にとっては海外遠征ともなれば検疫のために長期拘留を強いられることになる。これらの現状を考え合わせると「オリンピックから馬術をはずす」という考えもわからないではない。いっそのこと金まみれ、薬まみれのオリンピックなど全部止めてしまったらどうかと思う。また周知のように国体の馬術は「杉谷式人馬リース事業」によって開催県が勝とうという誠にあさましい状態が続いていた。しかし、我が北海道は杉谷式をとらず自

力ではまなす国体を戦った。北海道はこのような純粋な気風のある土地柄である

さて古い話になるが、私が馬術部に入ってもなく部はイタリー式自然馬術方式でやってゆくことになった。当時、皆で文献学習を何回もやったものである。しかし文献だけで間に合うものでなく、3年目の時には大阪の岩坪徹氏を尋ねていろいろ教わったこともあった。戦前イタリアの騎兵学校に留学して日本にイタリー式自然馬術をもたらした今村安氏の直弟子の一人が岩坪氏であり、今私が岩坪氏と一緒に活動しているのはもっと自然馬術を追及したいからである。

その岩坪氏からお聞きした面白いエピソードがある。クレイン乗馬クラブ在籍中によく学習教材(文献)を作られたのだが、当時のインストラクターの何人かは漢字が読めずまた研究心も乏しく教材は役に立たなかったそうである。

学生諸君は何をどのように考えて活動しているのだろうか。最近北大馬術部を見て感じることを述べるが、これはあくまでも推測であり失礼な批判になるかも知れない。一年前だったかある馬に自由飛越をさせているのをみてその理由を聞いたところ「乗ったら飛ばないので」という返事だった。馬は自分で飛んでいるのだから障害に対する恐怖心はないと言える。であれば騎手に問題があるのか、馬が反抗しているのかのどちらかであろう。前者なら騎手の欠点を改善するか他の騎手になるかしくはならない。しかし馬の反抗であれば明確な命令を出して飛ばせるべきである。飛ぶことは馬が決めることでなくあくまでも騎手が決めることである。馬の気持ちを重視するあまりにこういう基本的なことを忘れていないだろうか。技術が未熟なのは仕方ないが、乏しい経験の範囲だけでその時その時を判断しているように見える。難しい勉強ばかりして細かいことはよく知っているが常識的な判断力の育っていない若い人が多くなったという話をよく聞く。しかし未熟な技術でも馬の調教は必ずしも不可能ではない。その昔畜大の杉山監督が残した調教方法を畜大生が忠実に実行し、馬が効率よく作られていった史実がある。私が4年目のとき、畜大は北日学に8頭出し、実に7頭が全日学への出場権を獲得したのである。彼らは皆同じ乗り方をしていたし、それなりに理論も身に付けていた。手綱がブラブラしていても(未熟な騎手でも)130cmを飛ぶような馬を作る方法を杉山氏が考え出したのである。この杉山方式が自然馬術方式と共通するところが非常に多いことは杉山氏の言葉に残されている。馬術部に常に指導者が存在するとは限らない。現役だけでやらざるを得ない時もある。そのため我々は自然馬術方式を部に定着させようとしたが、当時の現役の反発により中途で終わってしまった。我々もまた現役時代に自然馬術方式をとり入れてOBの反対を受けていたのだからこれはお互い様であり、どの道を選ぶかは現役が決めることである。調教方式は一つではないのだから。だが反発した後、それに替わるものをどれだけ高めたのだろうか。もし反発だけで終わっていたのなら後輩に伝わるものは次第に乏しくなっていくであろう。長い年数を経た今、部はどっちつかずの状態にあるように見える。組織として馬を作ってゆくことから、明確な調教方針を定め、理論に基づいて実践を積み重ねていくのが知性ある大学生のスポーツ活動ではないだろうか諸君のすぐれた思考力を眠らせる

ことなく大いに活用されることを祈る。

北大正門前にシャトルバス運行中！！

北大から一番近い自動車学校

〒065-0025 札幌市東区北25条東1丁目1-17 (創成川沿い)

北海道中央自動車学校

TEL (011) 711-3344

ホームページ <http://www.hokkaidochuo.co.jp/> アドレス hokkaidochuo@st-g.co.jp

有限 菅原写真商会
会社

パスポート写真

カメラ・カラープリント特急仕上

3分間写真

各種証明写真

デジタルプリント

すぐできます

北22条西4丁目 ☎ 716-2662

◇ 北牙（ファストバロン） ◇

調教報告

杉山 賢治

私は11月に前騎乗者の畔柳兄から北牙号を引継ぎました。前シーズンにおいて騎乗していた金丸兄に指導・助言を頂いて運動管理を行ってきました。1年間を振り返って、結果として成績を残すことができず非常に歯がゆい思い、責任を感じています。しかし、北牙号に騎乗することで自分自身様々なことを学んでこれたのではないかと思います。ぜひ引き継ぐ下級生に頑張ってもらいたいと思います。

北牙号は馬場運動に関しては幾分難しい面がありますが、障害に関しては非凡な才能を持っていると感じています。運動管理としては、深雪の時期は馬場運動・二蹄跡運動を中心に練習を行いました。この時期は自分自身の技術不足もあり、調教というより騎乗者の練習の趣が強かったと思います。融雪後、障害練習を始めるにあたってコンビネーションを中心とした飛越練習を行ってきました。とくに障害に向かうペースと随伴を学ぶことが中心でした。北牙号は障害飛越に関しては引き継がれてきた調教の結果、安定したものを持っています。速歩の飛越や自由手綱による飛越も問題なく行うことができました。障害に向かう時の力強さは凄いものがあります。

半沢杯を始めとし北日までの飛越競技を通して感じた事は、馬のボルテージと騎乗者の誘導次第で北牙号は常に満点で帰ってくる実があると思います。この馬の特徴として障害物に対する注意力は良いものを持っており落下は殆どありません。また障害に向かう力も強いものを持っています。

しかしLB程度の障害であれば勢いさえあれば問題はないのですが、それ以上になると障害に逃避することが多くなります。また北大外における走行では難しくなる傾向があると感じています。私自身の経路走行では障害が高くなると右に切られることがしばしばありました。口向きや体が硬いためもありますが、障害に入るアプローチの段階で騎乗者が右内方の手綱で修正しようとするとうしろから外に逃げてしまうからであります。これはシーズンが進むにつれて、チャレンジする障害のレベルが上がるにつれて顕著に現れてきました。

そのために普段の練習では、フラットワークを特に意識し騎坐と脚による推進や方向転換を意識して練習しました。騎乗者の技術面の改善が重要だと思っています。とくに回転で脚により誘導できるようになること、手綱を引っ張らないことが課題でした。北日直前の練習においてはバランス等補助器具を利用して練習も行いました。コース走行においては、ボルテージをあげスムーズな走行ができるように目指しました。

最終的には国体予選で帰すことができたこと、基本的な状態にすることができたことはよかったです。時が経ち、思い返せば、当時気づくことのできなかった、また気づ

いていつも実行できなかった反省点が数多くあることを実感しています。この結果は自分の技術不足によるものが大きいと感じています。

今後は、次に騎乗することになる後輩にしっかりと引継ぎ、自分自身もこの経験や学んだことを生かしていきたいと思っています。また指導して下さった金丸兄や諸 OB、松下さんそしてバロンに感謝するとともに、来シーズン活躍することで恩に報いたいと思っています。

離厩報告

国井千恵子

私がバロンについたのは代替わりの 9 月でした。そのころには離厩も離厩先も決まった状態で人の練習のために騎乗する日々でした。

目標は 10 月の OB 戦の LB を回ってくる事で、最初は訳も分からずこの目標を軽く考えていたのですが、バロンに乗り続けるにつれ、チーフとして乗る事の難しさを実感し、人馬ともに状態が悪くなっていき、本当に経路なんて回れるのかと悩む日々でした。OB 戦の前 1 週間、それまでも見ていただいていた金丸兄に騎乗していただき、なんとか形だけでもつけたいと思ったのですが前日の練習でもたいした進歩は無く、OB 戦で走られる悪夢をその夜見ました。

当日はもうだめで元々という気持ちとなんとかやり遂げたいといった気持ちとが入り混じり、実を言うと頭ははっきりしてはいたけれど、一種訳の分からない状態でした。それが幸いしたかどうか分かりませんが、準備運動から、中田兄に見ていただきながらも一人でやり、我ながら驚くほど無事に回ってくる事ができました。その後 2 人の OB（中田兄、堀崎兄）が騎乗、その疲労からか鼻出血といったアクシデントもありましたが、たいしたこととはなく無事 OB 戦、そして離厩式を終えました。

元々の予定としては、その後すぐに離厩だったのですが、先方の都合もあり 12 月 7 日に離厩となりました。

実は 1 度離厩日はその 4 日前に決まっていたのですが、ちょうどその日にバロンがセン痛を起こしてしまったため、延期となったのです。皆ほとんど記憶が無いくらい珍しい事で心配したのですが、早期発見のおかげか少しの引き運動で良くなりました。あまりにあつという間に治ってしまったため、感傷じみしていますが、離厩したくなくて仮病をつかったんじゃないか・・・なんて考えてしまいました。そして延期したその日は天候不良によりまた延期。ようやくその次の日天気が回復し、無事に離厩していきました。

バロンと接したのはほんの 3 ヶ月程度ですが、その間の思い出、そして OB 戦の経験はずっと忘れず、これからも生き続けると思います。少しだけだけれど、私を成長させてくれたバロンに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうバロン 10 年間お疲れ様。

◇ 北凌（ハギノレジェンド） ◇



調教報告

山本 裕己

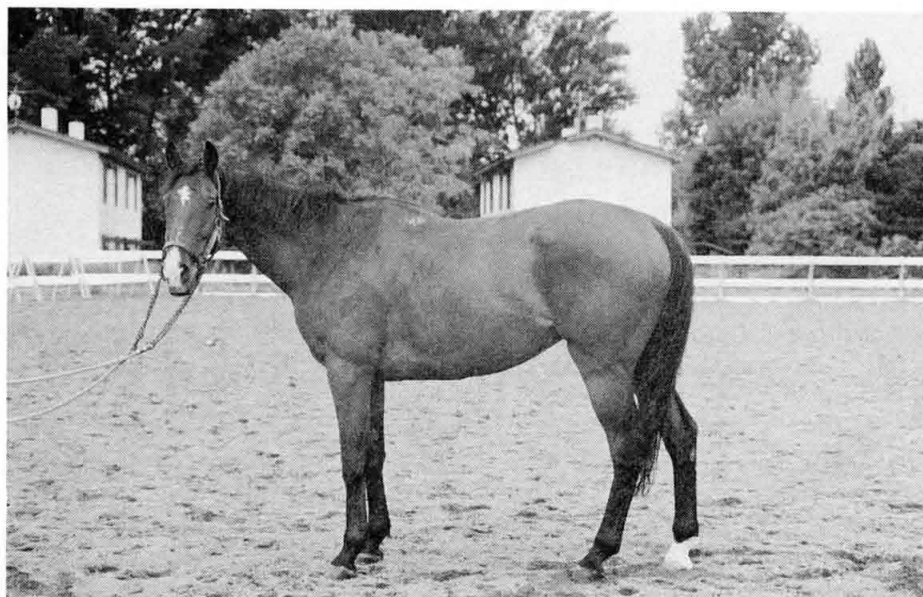
今年(2000年)1月に乗り変わってから全日の11月までを総括的に振り返ってみる。ただ小手先の技術のみを求め、実戦の事を考えず練習での出来の如何によって一喜一憂していた浅はかな騎乗だった。結果、失敗の連続だった。失敗するたびに試行錯誤し、再び失敗を繰り返す。一番大事なことを忘れていた。レジェは大して脚を使わなくても前に出るため、無意識のうちに脚がおろそかになってしまっていた。だがそれは馬が勝手に前に出ているだけで、馬が前に行く気がなくなったら終わりだ。しかし、それに気付かなかったわけではない。できなかった。前に出すのを怖がっていたのだと思う。それでも何とか甘く見ていた。練習と実戦のあまりに大きな違いを軽視し、何とか甘く考えていた。その結果が全日である。

今年得た一番大きな物は、数々の失敗から得た数々の教訓であり、失権したものの全日の耐久コースをゴールまで帰ってきたというわずかな自信である。これを来年につなげることが出来れば、来年は今年よりも1歩も2歩も先の位置からスタートラインを切ることが出来ると思う。

来年は新生レジェンド&山本コンビをご覧いただけたと思います。

21世紀のレジェンドと俺に栄光あれ。

◇北旋風（トルネードダンサー）◇



調教報告

森田 崇之

<はじめに>

- ・ 北旋風のチーフを正式に任されたのは、年明けの1月だった。北日学まで半年しかないというプレッシャーは多少はあったが、歴代チーフの田中兄、尾崎兄の時代に、北旋風で多くの競技会に出場させていただいた経験もあり、自信を持ってチーフに臨んだ。馬の性格を端的に言えば障害においては前向き、フラットワークにおいては口・体が非常にかたい、というのが彼の特徴であった。1年経って多少そのような見方が変化したことが、ここでは、主観的、客観的な意見を織り交ぜて、調教報告を書いてみようと思う。

<フラットワーク>

- ・ 北旋風に騎乗するにあたり、1番の課題だったのは、どれだけ準備運動で馬体をほぐすことができるかということだった。前述のとおり、北旋風は、口向きが普通の馬に比べ非常に硬く、そのためフラットワークで馬体をほぐすことは大変な作業であった。乗りはじめの頃は何から手をつければいいのか皆目見当もつかない状態だったが、多くの諸先輩からのアドバイスに助けられ、次第にフラットワークにおいて馬の向上が感じられるようになった。まず、常歩運動に重点を置くことを心掛けた。ここで重要なのは“どれだけ常歩で馬の集中力あげていくか”ということだった。口が堅いので、最初は強めに拳のコンタクトを保ち、徐々に拳をゆるめていき、同時に人間のバランスの変化で馬を敏感に反応させていくようにした。ここでは前肢旋回・後肢旋回・肩内・斜め横歩を

有効に利用した。前肢旋回は中でも重点的に用いた。前肢旋回の使用は馬に内方脚を教えるだけでなく騎手にも内方脚の使い方、重心の移動の方法をマスターさせるものであり、非常に有効な手段だと感じた。馬が人間に集中するようになったら、速歩・駆歩運動に移行した。ここで重要なのは後軀をいかに動かせるかということであった。よって歩度の詰め伸ばし巻乗り運動は欠かせないものであった。特に、伸ばした歩度を詰めてから即座に巻乗りへ移行する事で、馬の反応も良くなり、また前軀が徐々におきてくるのを感じ取ることができた。

これらの運動において、総じて重要なことは半減脚をどれだけ馬に伝えることができるかということである。半減脚の定義は各人によってそれぞれ異なるが僕なりの解釈は「運動と運動をスムーズにつなげるための方法」である。これは馬と人が積み上げていく約束事のようなものであり、これを無視してしまえば、人と馬の調和はできなくなってしまふ。特に北旋風は、そういった約束事を破ってしまったら、全く人の意思が伝わらなくなり、たちまち暴走してしまうタイプなので、これから乗る人はこの点に注意して騎乗すべきである。

<障害>

- ・ 障害飛越に関しては、コンビネーションジャンプを中心に練習を行った。過去の北旋風のビデオを見る限り前肢でバーを落下させることがほとんどであった。よってコンビネーションにより肩を上げることを馬に教える意味でこの練習を取り入れた。また、この練習は騎手が正しい飛越に随伴する拳の感覚を理解し、バランス・リズム感を養うという意味でも非常に効率的であったと考える。問題は駆歩飛越にあった。とはいっても、問題の要因は馬ではなく人にあった。障害前でしっかり脚で推進し、静かに座って馬の邪魔をしなれば、この馬はどんな障害でも飛越してくれる。ところが拳が上下したり、両脚はしっかりはさめないなど、もっぱら騎手の過失の積み重ねにより馬と人との信頼関係がシーズンを通して確立することができなかった。その結果として、以前に比べ馬が障害を躊躇するようになってしまった。今後この馬に騎乗する人は是非このような過失だけには注意して騎乗していただきたい。

<最後に>

- ・ 週末には馬場にお見えになり、多くのアドバイスをいただいた市川部長、これまで支えてくださった OB の皆様、部員一同、乗馬関係者の方々には大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。これからも北旋風を暖かく見守ってください。

◇ 北祥(シンコウスピリット) ◇

調教報告

森田 崇之

昨年の全日学では不本意な結果に終わってしまい、次の1年はこの馬と心中するつもりで、この馬のチーフになった。しかし、結果としては、北日学にすら出場できないという結果におわってしまった。ここでは、反省も踏まえた調教報告を書くことにする。北祥号は口が非常に敏感な馬で、手綱を持ったとたんに背をはる癖があり、頭頸を無理矢理下げていることはできても、脚の推進により、後駆からハミまで推進をつなげることは困難であった。困難といっても、これができなければ、大きく動かすことはできないし馬体にも負担になるので、冬場は基本的なハミ受けを覚えさせることに重点をおいた。よって昨年と同様、シャンポンを装着したロンジングは引き続き行った。さすがに馬も後駆を踏み込んで歩くことを理解するようになっていった。だが、いざ騎乗するとなかなか脚に反応しない。そこで内方と外方の脚の位置を大げさに区別して用いるようにし、また、常に内方に長鞭を持つことで“脚の存在”を理解させることにした。ここでは、運動の中に前肢旋回を用いることが馬に脚の存在を教えるために有効的だった。冬場はもっぱらこのような基本的な運動を中心に行った。

シーズンに入って障害練習を取り入れ始めた。障害練習はジムナスティックが中心で、完歩は馬が踏み切りをあわせやすい5、5～5、8mのダブル障害を用いた。北祥号は踏み切りが近くなったり、遠くなったりすると障害を躊躇する癖がついていたので、この完歩を用いることで馬に障害を飛越することに対する自信をつけさせたかった。徐々に馬も自分で踏み切りをあわせることを覚えていった。しかし、ダブルの一つ目の障害に向かうときに人がしっかり推進しきれずに、失速して飛越した時は、たいてい2つ目は拒止した。また、物見も以前にも増してひどくなった。しっかり馴致さえすればどんな障害でも飛越するが、裏をかえせば馴致しなければ飛越しない馬になってしまった。やはり、どこかで馬の心の中に“障害は怖いものだ”という気持ちが存在しているのだろう。昨年S35年卒の大場さんから北祥号の全日学での走行に対するアドバイスをいただいたが、その中に次の一節があった。“1度障害を嫌いになった馬を直すのは困難だ。”この言葉を深くかみ締める1年となってしまった。自分の馬乗りとしての技術不足・知識不足が全てではあるが、北祥号に対して、またこれまで北祥号を調教してくださったOBの方々には本当に申し訳ないと思っています。今は同期の長田君が自分に代わり北祥号を調教しているが、是非、来年は飛躍の年になることを期待しています。

◇ 北鈴 (スズロード) ◇



調教報告

長田 拓郎

皆さんどうもありがとうございました。

こんにちは！ ニュージーランドから馬具を輸入しませんか？

当社はニュージーランドに設立された馬具の輸出会社です。（競走馬用品も有ります）スタッフのほとんどが日本人で運営されておりますので、お問い合わせ、お見積もり全て日本語で通じます。又、ご注文いただいた商品の発送作業から請求迄全て日本人スタッフの手により懇切丁寧に行っております。ご決済は基本的にカード会社（JCB, VISA, MASTER, AMEX）を通じてニュージーランド・ドルを日本円に換算しての決済になります（銀行振込も可能です）ここ2～3年はニュージーランド・ドルはおよそアメリカ・ドルの半分のレートですので、通常でもお安い上にニュージーランド・ドル安のメリットが生かされます。

まずは、最近の当社の無料カラーパンフレットをお送り致しますのでFAX又はeメールにて「資料請求」とご送付希望先ご住所/ご氏名を当社にお知らせ下さい！

* FAX専用番号 001(KDD使用の場合)+64+9+413-9807（ファックス専用）

* メールアドレス uma@wave.co.nz * ホームページ <http://www.uma.co.nz>

担当（河本）



**SAGITTARIUS
ENTERPRISES LTD.**

20WINDFALL GROVE GREENHITHE AUCKLAND 1450 New Zealand
FAX: 国際電話番号+64-9-413-9807 TEL: 国際電話番号+64-9-413-9802

◇ 北蘭（アーネストヒダカ） ◇



調教報告

竹本 和彰

ヒダカに乗るにあたり注意したこと、注意されたことはヒダカの年齢と体のことだ。18歳という限界を感じさせられる年齢と、背中・腰の状態。それだけでも十分すぎるぐらい大変なのだが、そのうえ、疝痛になりやすいという重大な点もあった。疝痛に関しては結果的には一度もならず、年齢と体についても、何とか、最悪の状態にはならなかった。9ヶ月間体にかんする悩み、心配は常におおきかった。

ヒダカの能力に関しては、年齢を考えてもまだいけるはずだった。あまりにすごい馬なのでもちろん僕が調教したことなど全くない。僕が調教された。たくさんヒダカに怒られた。その怒られたことをもっと細かく考えていたら・・・と、思う。問題は繊細で気難しい性格で、同じ北大の馬でさえ嫌がり、いつも聞いているはずの音にもビックリする。ノーザンなどに行くと暴れてばかりで準備運動がただ走るだけになってしまったことがほとんどだ。18歳にまでなってもこの気性が治るはずはないと思っていたけれど、そういうものだときらめはじめたときいつの間にか動揺することが少なくなり、北日で福島に行ったときには体力がないのもあったろうと思うがある程度落ち着いていた。ただ、最後までどうしようもなかったのは輸送時で特に行き馬運車では車を壊すほど暴れる。福島に行くときメインフィールドの小野さんから教えていただいた薬を試してみたが、効果は分らなかった。結局権利をとれなかったのは僕の努力不足・意識不足だった。来年杉山がヒダカの栄光をとりもどしてくれると信じている。

◇ 北蒼（トワイライトブルー） ◇



調教報告

長田 拓郎

北蒼は冬合宿以前にケガをして1ヶ月以上馬休続きで、いきなり冬合宿で下級生もたくさん乗りしかもティーディマンをつけていたので、推進できない下級生では馬体に無理がかかったのか、腰を痛めてしまっていた。

そういった状態で乗りかわったのが1月で、はじめは、全く前にでなく、拍車、鞭の使用も、馬をいらつかせるだけで、効果がなかった。そこで、調馬索とシャンボンをつかい、まず、リラックスした状態で速足をすると同時に、馬体をほぐし、後駆をふみこませ、騎乗時に前にでやすいようにした。徐々に人も馬のリズム、バランスに慣れてきたこともあって、少しずつハミに向けて推進できるようになってきたのは、冬も終わろうかというころで、未だに移行時、横運動時では十分な半減脚を与えてやれず、ハミから逃げることもしばしばだった。

北蒼への乗りかわりとしては、これでよいと思う。調馬索や、前任者に騎乗してもらうなど、乗りやすい状態にしてから、馬を推進する感覚を身につけること、リズムとバランスに慣れること。北蒼に乗るに最も重要と思われる、人との信頼関係を騎乗時、手入れ中、曳き馬、放牧などで作ること。北蒼は、私の強い性格なので、主人と認めない者の指示はあまりまじめにやらないばかりか、振り落とそうとしたり、障害で拒止するなど、悪い面をだすこともあるのでまず気持ちを通じあわせることが大切だろう。無口で馬場を全く普通に曳いて歩けるくらいにする必要がある。

雪もとけ、障害もやりはじめるが、最初はやはり、速足でのコンビネーションから徐々に手綱をもったのコンビネーション、それも色々なパターンのコンビネーションが人にも馬にも効果的かと思われる。1完歩、2完歩など組み合わせ、人の練習に最適であるし、馬はできるので、勘をとり戻すのにコンビネーションはよいと思う。しかし、推進できないまま障害に向かうと、拒止つながるので、ここで、推進がたりないと感じる人は、ギャロップを運動にとり入れるのも1つだし、駆歩のバンケットを使って馬の飛ぶ気をつくってやることもできる。だからといって推進不足の状態の高い障害を飛ぶことは禁物で、場合によっては80cmで満足しなければならないだろう。

フラットワークに関しては、まずは後駆をふみこませること、移行時(歩度の変化、回転前も含めて)の半減脚を使えるように、後駆から馬をつめること。それをできないままでは20×60の馬場に入ってから、悲惨な目にあうことになる。硬直、後退、ハミ反抗、ありとあらゆる悪事を尽くすだろう。普段から後駆からの運動を心掛けることが(どの馬もそうなのだが)重要だ。速→常、常→速、駆→速、駆→常、速→停などの移行がハミから逃げられずに、後駆から、ハミにためる感覚でできるようになったら、斜横歩から横運動をはじめるとよい。前肢旋回ができるとういのだが、勝手に旋回するところもあるので、常歩、速歩での斜横歩からやればよいだろう。

シーズンが進み、駆歩飛越、経路走行、野外の馴致など、いよいよ本題に入ってくる。

駆歩飛越については僕の失敗としては、馬を丸めようとしすぎたこと、踏切を調整しようとしすぎたこと、つまり、馬はできるので、もっとナチュラルに近いバランスで十分に飛越できる。しかし、後駆を推進してやることは絶対にさばれない。特に内方脚での推進がないと、馬は踏み切れないように感じた。全く僕の感覚になってしまうが、推進を10とすれば、手綱は10持ってコントロールするのでなく、5か4位で、頭頸が高くても気にせず、耳を障害へ向けてやる。しかし、100cm以上は、6ぐらいは持って、必要最低限のバランスバックをするように心がける。つまり、気分よく障害へ向けること。気分よいペース、リズム、そして高さに応じたバランスバック。110cmまでは10:6or7で十分にとべる。が、ハミがはずれてしまうとこれまた止まったりする。そういう意味での数字と思っ

てほしい。

経路走行に関しては、絶対にできないのが先飛びである。おそらくハミがはずれ拒止され、落馬も十分ありうる。ペース自体速めなので(そのペースは、川崎兄、僕のビデオなど見て研究してほしい)人も気分よく、油断ができたところで、ついやってしまいがちである。もし、障害につまっても、待っていれば、とんでくれるだろう(声は出せば効くように思う)。他には、回転で内へ倒れ込むので、人がそれに付き合わずに、内方脚でおこしてやるようにする。そうすることでよいバランスで次の障害へ向かえる。駆歩の手前は馬が変えてくれるのでやりやすい。

野外については、問題ないように感じる。ペース、馬のやる気、コントロールのしやすさ等、高い資質があるのは確かだと思う。しかし、これからもっと全日学を目標としてほ

しいからこそその課題としては、初めて飛ぶタイプの障害、馬が気にしそうな障害に対してどうやって飛ばせるか、その障害のタイプに必要なスピードとコントロールの判断、向ける角度、乗り手がどれだけ冷静にかつ勇気づけて馬を向けられるか、その辺りに普段の信頼関係が大切になってくるのではないかと。他には障害間の集中が挙げられる。飛んだ後、次へ向かうまでに前へだしたり、軽くつめたり、そういった馬の集中力を保つ工夫が必要である。あとは、ゴールまで気を抜かないこと。油断してないつもりでも、どこかで“もういけるぞ!!”と思ってしまうと馬は自分から飛んではくれないので、反抗をしてしまうかもしれない。僕の失敗はここだった。

北日が近づいてくると、人も次第にあせりがでて、ついオーバーワークになりがちだろう。よい状態になるまでの時間を短縮する工夫も必要だし、疲れが足元にもでてくる。避けなければならないのは、馬が前に出る気をなくすほど疲れることだ。同じように見えても気分よく前にでていいるのか、人にやらされているのかの差は非常に大きい。北蒼は、ヤンチャなぐらいが本当に調子がよい。よい状態でのぞんでほしい。また、遠征地で飼食いがおちることがあるので、ニンジン、ハチミツ、青草、ありとあらゆる手段で食べさせないと、すぐバテるし、前にでなくなるので、実力がだせなくなる。

調教審査については、まず、できれば審判台を見せること。X点からC点への速歩を油断せずにしっかり行かせること。あとは細かいことになるが、つめのぼしは思いきってやってよいと思う。肩を内へが難しいと思うので、よく練習してくる必要がある。僕の場合は、内方後肢を外方前肢の方向へきちんとだすように、とこれだけを考えていた。後肢旋回はしっかりつめ、ゆっくりと、外方後肢を1歩づつ動かす。後退もゆっくり1歩づつやらないと、退がり過ぎるかもしれない。反対駆歩もしっかりとって、単純踏歩変換も思い切ってやれば、こたえてくれる。結局、馬はできるといいたい。人が練習して鞍数を積んでいけば、必ずやれる。北日では5位以内につけることは可能なのではないかと。

耐久については、野外のところで書いたとおり。とにかく、人も馬も集中を切らさずに、スタートからゴールまで。細かなところまで下見で思い描いたとおりの走行ができれば大丈夫だろう。次の日へ向けて、全力で疲れをぬくこと。前へでなくなるとダメなことは何度も書いたが、最も重要だ。

余力では、おそらく緊張する順位だろうと思う。しかし冷静に、馬と相談しながら準備運動をし、飛越数が多くなりすぎないように。前日に野外を帰ってきていければ、飛ぶ気はあると思うので、人が冷静にそれをコントロールしてやる。速すぎないか、前へでているか、バランスバックできているか、確認したらそれでOKだ。やはり物の入った障害には注意しなくてはならない。高さに関しては大丈夫だと思う。万一、反抗があったとしても冷静に、追ったりしてはよくない。

色々書いたが、特徴的な失敗はほとんど自分がしてきたことだ。調教というものはあまりなく、分析報告となっているが、北蒼はそれほどデキる馬だということを知ってほしい。これから北蒼に乗る人は、馬が悪さをすることに腹を立てるだろう。しかし、それは

全て乗り手の責任と考えて、精進してほしい。自分の乗り方を直し、さらに直し、北蒼が心地よく運動しているように。そうすれば、結果はついてくる。自信をもっていい。

偉そうに書いたが、自分は結局、権利をとってやれなかった。しかし、北蒼に対する期待は高まるばかりである。無責任といわれても仕方ないが、次の騎乗者にももちろん、その先の騎乗者にも頑張って北蒼を東京へ連れて行ってやってほしい。それは、全日学でも結果を残せる可能性があると思うからで、プレッシャーをかけるわけではないが、北蒼と楽しい思い出をつくってほしい。

応援してくださった皆様、自分の力不足を申し訳なく思います。有難うございました。

伝統の
学生寮
生の友をつくる!

ダリア荘

お申し込みは
先着順! 電話でお早めに
011(758)3611迄

住 所 063-0869 札幌市西区八軒9条東5丁目1番5号
(中央区北22条西16の位置に相当)
電 話 011(758)3611・FAX 011(758)6238

北大で一番安く
内容が良いと評判

北大生が4年間住むほどの人気下宿

【施 設】※定員45名 ※全室個室(机・椅子・ストーブ付き) ※食 堂 ※浴室(入浴無料・日曜ナシ)
※24時間シャワー室(1回100円) ※談話室(衛星放送TV付) ※洗面室 ※炊事用ガス(無料)
※洗濯室(コイン 100円)・乾燥機(コイン 100円) ※個室電話 月2,000円(希望者)

【費 用】

タ イ プ	A (和室5帖 押入)	B (新築 洋室5帖 ベッド・ロッカー)	C (新築 洋室6帖 ベッド・ロッカー)
申 込 金 (キヤンセル費には 返金しません)	20,000円	20,000円	20,000円
入 寮 費 (半年以上の長期契約 の方には返金)	23,500円	26,000円	28,000円
毎月の費用	43,500円	46,000円	48,000円
そ の 他	電気電気代小メーター実費約1,000円かかります。 リースフトン利用の方は1,600円加算(衛生上なるべく利用してもらう。シーツ毎月2回交換)		



◇北陽（ドリームグリーン）◇



調教報告

金丸 鉄平

はじめに

平成11年のシーズンから引き続き去年1年間北陽号の調教を担当させていただきました。代替わり後からは3年目の山本が引き継ぐことになったのですが全日までは彼に余裕がないということで平成12年11月の初めまで私が騎乗していました。そこで、この報告は平成11年の秋から平成12年の11月までの調教の様子を書きたいと思います。

フラットワークについて

とにかく前駆にかかった動きをするので、この1年間の目標はできるだけ後駆に筋肉をつけて重心を後ろにもってこること、課題としてはツースターと3課目をこなせるぐらいを考えていました。

普段のフラットワークではつめ伸ばしと半減脚を意識した下方移行が中心で、これは1年間を通してほとんど変わっていません。ただ春先まではとにかく馬を前に出すことを考えて、細かい運動としてはツースターを意識して反対駆歩の練習と、斜め横歩から肩内までを徐々に行っていました。冬の間のこれらの練習は馬のバランスの向上にとっても役立ったと思います。

フラットワークの方法が大きく変わったのは半沢杯の前に畜大OBの鷲田さんに乗ってもらってからでした。それまでは馬を大きく動かすことで筋肉をつけようとしていたのですが、後駆が後ろに流れたまま前駆ばかりをつかった動きはなかなか改善できず、多少行

き詰まりを感じ始めていた頃でした。このとき鷺田さんに言われたことは、もっとゆっくりとしたペースの運動で後駆に荷重をかけたまま我慢することを教えなければいけないということでした。

その頃のドリームはゆっくりとした速歩をしようとするとうすぐ常歩に落ちてしまうような状況だったので、まずは人が体を起こして馬の重心をできるだけ後ろにもっていきながらゆっくりとした速歩を行い、慣れてきたらそのペースで幅の狭いキャバレッティを通過させるなどして後駆に荷重がかかった状態のタメの時間を長くできるようにしていきました。またこういうペースの中で内方後肢の踏み込みを意識して肩内や巻き乗りを多めに取り入れることと、動きが小さくなりすぎないように時々思いっきりつめ伸ばしをして馬を動かすことも意識しました。このような運動の組み立てによって馬の重心も徐々に後ろへ移り、脚に対する反応も良くなってきたように思います。

新緑大会のあとに後退を教え始めて、春の自馬大ではなんとかツースターをまわることができました。その後反対駆歩のペースなども安定してきて、8月の国体予選の頃には現役の上級生が乗って3課目で50%台が出せるくらいになりました。

フラットワークに関しては目標が達成できたかなと少し安心しかけていたのですが、代替わり後にOBの堀崎さんに乗ってもらってから再び運動の方法が変わることになりました。そのとき言われた事は馬が真っ直ぐ歩かないという根本的な問題で、これは私があまりに内方脚を意識しすぎたのとそれを受ける外方が甘かったのとで、馬が脚を使われたときに腰から外に逃げるような癖がついていたためでした。そこでそれまで輪乗りを中心に行っていたフラットワークから直線を多く取り入れて馬体を真っ直ぐにすることを意識し、腰内などで馬に外方脚を理解させる運動をしました。この課題についてはきちんと克服できないまま引き継ぐことになり、現役には難しい課題を残してしまったと申し訳なく思っているのですが、ドリームがもう1段階レベルアップし乗りやすい馬になるためにもがんばってほしいと思います。

障害について

障害の目標は、夏までにコンビネーションで110cmぐらいが飛べることで、具体的なデビュー戦の時期は考えていませんでしたがそれぐらいのコンビネーションができればLBクラスの障害はまわってこられるだろうというような考えでいました。結果からいうときちんとした経路走行をしたのが10月初めのOB戦で、放棄手綱で110cmのコンビネーションができるようになったのも10月のスティーブル馴致が終わった頃だったのもうちょっと早くできたのではないかと思います。

北日までは低いコンビネーションと拾い飛びが中心で徐々に駆歩飛越を行っていましたが、この頃は障害に対する前進氣勢がないのと飛び方が上手でないとでなかなかレベルを上げていくことができませんでした。この前進氣勢のなさへの有効な対処が私の技術では難しく、競馬で走っていないからということで半ば諦めていたのですが、代替りの頃から経路走行を意識して毎週いろんなタイプのミニ経路を回ったことと、ノーザンホースパ

ークでスティーブルの馴致をしたことがきっかけで馬も大きく変わりました。コンスタントに経路を回ったこととノーザンや酪農大など場所を変えて回ったことは、馬にとって良い経験になったし自分も馬の苦手な部分を認識する上で役に立ったと思います。このような計画的・継続的な練習は大会ごとに照準を合わせて練習しているシーズン中には難しいかもしれませんが、根気よく続けることにより馬も人も急速にレベルアップできると思います。

スティーブルの馴致はドリームにとってとても大きなきっかけとなりました。この馴致の後から馬場の障害に対する前進氣勢も良くなり、コンビネーションを通過中のリズムもとても良くなりました。馬が成長するときには、地道な作業によって徐々に良くなる時と何かのきっかけで急激に良くなる時とがあると思います。普段の調教は前者で後者にはそれなりのリスクが伴うことが多いのですが、事前の十分な検討と冷静な判断を持ってこのようなきっかけにどんどんチャレンジしてほしいと思います。

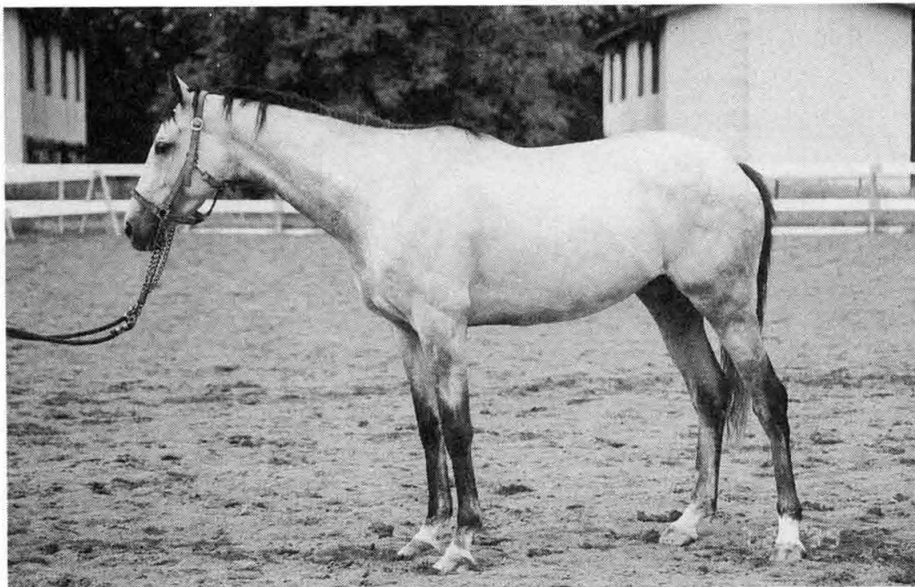
おわりに

現役の頃やそれを少し過ぎたくらいの技術のレベルで馬を調教していくのは難しいことだと思います。しかし、馬を調教するときには一番大切なことは、どれだけ馬の気持ちを考えてあげられるかとそれに合わせて柔軟な発想ができるかどうかだと思います。例えばバンケットが怖ければ小さな段差の上り下りから始めればよいし環境が怖ければ小さな溝を跨ぐところから始めればよい、リバプールが怖ければ跨げるくらい小さなものを作ればよい。どんな大障害馬も1本のバーを跨ぐところから始まっているんだという原点を忘れないければこのような発想も自然と湧いてくると思います。そしてそのために足りないものがあれば自分たちで作ればよいでしょう。アイデア次第である程度自由に自分たちの練習環境を作っていけるのは大学馬術部の良いところだし、そのための労力を惜しんではいけないと思います。

現在チーフとして馬に乗っている人または馬責として馬に乗っている人も、自分たちが馬の調教に携わっているということを常に意識してください。自分の技術の足りなさを自覚した上で、馬の気持ちを考えながら自分の伝えたいことを分かりやすく伝えるということを意識していれば、どんな壁にぶつかったときでも必ず解決の糸口が見出せると思います。

最後に、この1年間様々な場面でドリームの調教の方向を指し示してくださったOB及び関係者の皆様に深く御礼申し上げます。特に同じ時期に共に新馬の調教をやってきた川崎君と尾崎君とは、調教の方法について何度も話し合ったり、私が調教をあせって馬に求め過ぎそうになったところで待たせてくれたりいろいろな面で助けてもらいました。これからも馬術部のためにがんばってください。現役部員の今後の活躍を期待しています。

◇ 北彗 (メジロゲネシス) ◇



調教報告

尾崎 哲浩

ゲネシスが北大に来てから2年、僕が乗るようになってから1年半が過ぎました。次回の北日に総合でデビューする予定ですが、これまでの調教過程と今後の課題等を簡単に報告します。

1. 前年度までの状態

馬場は2課目に毛が生えたくらい、障害は新人新馬クラスのレベルでした。スティープルの訓練はまだノーザンホースパークの簡単な障害を2、3個馴致した程度でした。

馬場運動では巻き込み気味に運動していて、前にのめっていたので、減却が悪く後退や単純踏歩変換、反対駆歩等の運動には無理がありました。

障害においても馬が起きているのは障害の3歩前だけで、そのため障害間のコントロールがきかないという問題点がありました。

2. 今年度の調教過程

雪が解けて半沢杯への調整を行っていたところ後肢を破行してしまいました。シーズンの前半はこの破行が尾を引いて、ほとんど何もできなかったように思います。調馬索で、シャンボンをつけて頭を進展させ、後肢を追鞭でしっかり動かして障害飛越に必要な筋肉をつけるトレーニングを徹底的に行いました。この間のトレーニングで腰や背の筋肉が発達してきたように思います。6月くらいには肢のほうもだいぶ良くなり原町へ馴致に行きました。馬の精神面も大人になったようで特に物見をしたり、暴れたりすることはありませんでした。スティープルの方も簡単なものを2、3個選んで飛びました。

野外に入ると馬をコントロールしづらくなってしまうので繰り返し訓練することが必要だと思います。

その後北大へ戻ってからは、コンビネーションを中心に運動してなるべく馬が自分でバランスを取りよいリズムで飛越できるように訓練しました。

フラットワークでは馬を巻き込まないように、後肢を動かすため、駈歩での巻き乗りができるように練習しました。同時にツースターの課目をこなせるように肩内や後退、反対駈歩、単純踏歩変換のトレーニングを行いました。北日の時は、以前馴致に来ていたために順調に調整でき、新人新馬で下級生を出すことができました。前シーズンのように、走行中に巻き込んでコントロールが効かなくなるようなことはほとんど無くなりよいリズムで、良い姿勢で走行できていたと思います。これはコンビネーションのトレーニングの成果だと思います。

秋には秋の自馬大や山下杯、OB 戦に出ましたがLBクラスはほぼクリアしたように思います。

野外の馴致はノーザンホースパークで秋に 2 度ほど行いました。一応、一通りの障害は馴致できましたがまだまだ訓練不足のようです。

3. 来シーズンへの課題

来シーズンは総合の出場を目標にしていますが調教審査、耐久、余力それぞれに課題を抱えています。

馬場の調教審査においては駈歩区間でのつめ伸ばしと単純踏歩変換に難があります馬が前にのめった状態で歩度を伸ばすと、詰めようと思ったときに詰まらなくなってしまう。普段の練習で下方移行を運動の中に多く取り入れて、馬を起こす訓練が必要だと思います。また、単純踏歩変換が上手くできないのは、内方姿勢の転換が上手くできないためです。8字乗りや、左右のきちんとした駈歩発進の練習が必要だと思います。また、課目にあるような3、4歩常歩を入れた直線の中での単純踏歩変換をいきなり訓練するのではなく、3湾曲の中で常歩（速歩でも良い）を10歩くらい間に入れて、きちんとした内方姿勢をとらせてから踏歩変換の練習をしていくのが良いと思います。

耐久での課題は、いかに馬をコントロールするかにあります。おそらく馬の方もまだ練習不足なので繰り返しの練習が必要です。騎手も馬を行かせたままにするのではなく、なるべく自分の手の内に入れて走行させるように努力をしなければいけないと思います。

余力は、高さが今ゲネシスが飛んでいるクラスより高くなるので高さへの課題があります。正直に言えば、どうやって高いクラスへ移行させれば良いのかよく分からないのですが、とにかく普段からコンビネーションで馬に飛越できる筋肉をつけてやり、騎手と馬が無理の無いクラスでコンスタントにコースを回っていくうちに徐々に高いクラスへ移行できるのではないかと思います。

来シーズン中にはもう僕の手を離れることになると思いますが、現役のみんなには期待をしていますので是非がんばってください。

◇ メロンパワー ◇

調教報告

畔柳宏司

はじめにはじめにことわっておきます。これはほかの調教報告とはまったく異質なものです。私が技術的につたなかったこと、馬が技術的な問題より精神的な問題を多く抱えていたこと、私がそれまでの2年間新馬の馬責を中心に活動してきたこと、の3点が私とメロンの8ヶ月間であり、当然のように競技馬の調教とはまったく異質ですので混同しないでください。競技馬のチーフになる人よりは馬をもっていない下級生が意識すべきことを中心に行ってきました。

メロンパワー

99年5月入厩 駈歩でかかるという理由で札幌競馬場を離厩。それまでは2年生をチーフとし、チーフが乗れば多少落ち着くが、下級生ではかかってしまい落ち着いた駈歩とは無縁。練習馬。

くろやなぎ

97年入部 主に新馬の馬責しかできず、技術的には…。1頭の馬にのめりこむところあり。1月からメロンのチーフに。

はじめメロンは春に離厩する予定であったため、強引に駈歩をして、元から弱い背中と腰をいためさせてしまった。

常歩しかできなくなったメロンと私に昔からメロンを知っている松下さんははみを受けて運動するようにおっしゃった。最も基本的なことだし、腰を痛める原因なのは知っていたができなかった。松下さんに見本を見せてもらい時間をかけてやってみた。何せ時間はあるのにできるのは常歩のみ。今考えるといい期間だった。常歩の輪乗りの中で肩内と腰内をイメージしてそれぞれの脚を使ってみたり、輪乗りのなかで人が1歩ずつの脚に神経を使えるようになり、馬の反応を感じられるようになってきた。時間が頭頸を下げさせてくれた。当然速歩や駈歩にも時間をかけて波及してきた。現在不完全な部分は人の技術である。

メロンについても分かってきた。記憶力がいい(いやなことを忘れない)、繊細(神経質)、好奇心旺盛(物見をする)、敏感(細かい事を気にする)。私と同じ、特に15年以上前の私と同じだ。だったらこのタイプは気分よくおだててやって、自信を持たせてやればハッピーにできるに違いない。少し調子に乗りやすいところはあるが。長所と短所も表裏一体である。長所を誉めて、短所には目をつぶってやろう。人がいいほうに考えると馬も徐々に楽観的になってきた。

調馬策もはじめたが、不思議なことに気づいた。追い鞭を余り使わずに「まえまえ」と「よしよし」を「元気に大きく歩く」、「楽にしてよい」と解釈したらしく、はっきりとできるようになり追い鞭をあまり気にしなくなった。調馬策が怖くなくなった。その時点ではよいことと判断した。

腰もよくなり速歩をはじめた、ゆっくりポテポテ歩かなかった馬だが、はじめは持って遅くなった時に誉め、徐々に手綱を楽にしていった。自信とは怖いもので手綱を投げてゆっくり速歩するようになった。そこから少しずつ脚の抑揚に反応しだした。基準がポテポテになった。馬も余裕を持って周りを見られるようになったようだ。

それからメロンに「2年生でキャバレッティー」、「2年生で2課目」という宿題が与えられた。障害は恐怖で走り抜けていく馬なのだが…。

2課目は半澤杯で私、春季大会で私と3年生、公認大会で私と2年女子、国体予選では2年女子二人と予定通りに出場できた。

はじめこそ人がかかり失敗したが、人が落ち着いていれば、馬もあせりながらそれを見ている。今では自信まんまんに頼もしく経路をまわってくる。

キャバレッティーも常歩からはじめて自信をつけた結果、低い障害（現在90まで）落ち着いたペースで跳べるようになってきた。

馬に自信を持たせることのすごさを学ばせてもらった。そのときの人の我慢と冷静さの必要性も教えてもらった。もちろん技術的にも教わった。昔からのこの馬を知っている松下さんのアドバイス、鷺田さんのアドバイス、中田さんのアドバイス etc. とても感謝しています。

何より学んだのは本当に馬をかわいがること。馬術部での活動は一見それとは正反対の、つらい判断を下す場面が多々ある。だが、原点の馬を愛することができるのが大前提である。

昨年度部報の長男『ユノ』の報告に続いて、今年の次男『メロン』の報告も長くなってしまいました。これでもだいが削りました、そういう人間だということで許してください。こんな文でさっぱりわかんない人は聞いてください。息子たちのことなら答えます。「メロンこれからも元気で。調子に乗りすぎるなよ」　　へへっ

離厩報告

大久保和馬

畔柳兄の後を受けて9月から一緒にやっていくことになりました。もともと去年入厩した

時には、障害をやれば走り出す、下級生が駆足を出そうとすれば制御不能だったのですが、兄がやさしくやさしく乗ってきたおかげでとても落ち着いた馬になり 1 年生と僕に良い練習をたくさんさせてくれました。しかし、残念ながら平沢 R.G に離脱することになりました。今のメロンであれば誰が乗っても安全に運動できると思います。冬にでも会いに行こうと思っています。どんな馬になっているか楽しみです。

北海道大学馬術部のご発展を祈る

馬 具 専 門 店



REITSPORT
RUHM

株式会社 ライトスポーツ・ルウム

大阪市西区南堀江4丁目-2-3

〒550-0015 Tel 06-6533-0777

Fax06-6533-0778

◇ カッティングダーク ◇



調教報告

小野 元也

カッティングダーク（以降カツオ）は平成11年11月の入厩以後、OBの川崎兄にずっとチーフをお願いしています。自分は平成12年の1月から8月まで馬責としてついていました。ここではその間のカツオについて、今後の後輩たちが少しでも役に立てられるように書こうと思います。

<馬体について>

基本的には健康な馬だと思います。真夏の福島でも飼いを残すことは無かったし、いつも元気が余っているというか、動きたくて仕方が無いという感じです。筋肉もつきやすい体質のようで、調馬索も含めた日頃の運動で胸、背、尻部等に良い筋肉がついていきました。

ただ体が硬いらしく、焦ったりかかったりすると良くふみかけや左右の肩跛行を起こしていました。焦りやすく動きたがりの性格の為、広い場所に放牧すると無茶苦茶に走り回ったり、練習中でも何かに驚いて四肢をばたつかせケガをすることもありました。ふみかけは主に冬場で特に後肢によくケガをしていました。また、肩の跛行は、この馬の健康管理において最も注意すべき事だと思います。5月末のスティーブル馴致と新緑馬術大会の後、最初の肩跛行がありました。6月上旬の福島馴致後も完治せず、春自馬を回避して7月上旬まで練習量を最小限にして休ませていましたが、公認に出場し、その後の札幌市民

大会で再び跛行してしまいました。それからまた休ませて、北日の新人新馬には何とか出場できましたが、休ませていた期間を考えると、決してロスの少ないシーズンではなかったと思います。もともと障害レースの馬だったためか、飛越が前のめりで速くなりがちで、そのことも肩跛行の一因と考えられます。体が柔らかくなっていけば、飛越も良くなるだろうし、ケガも減ると思います。

<性格について>

「赤子」のような性格だと思っています。9歳という年齢の割には非常に幼く、また単純でした。上級の乗り手にはとても従順、真面目で、覚えも早く調教はスムーズに進んでいきました。ただ世話している時や、頼りない乗り手が乗るときは自分本位な所があり、反面とても焦りやすい所もありました。根は素直な馬なので、自分本位なのは悪気がある訳ではないと思います。ですから、むやみに叱っているのは、カツオの最大の長所、「素直な性格」をひねくれさせてしまうかもしれません。大事なのは馬との関係作りで、まずやってはいけないことや人が上であることをはっきりと理解させ、更にカツオの場合人の存在が頭の中から消えてしまうことがあるので、声を有効に使う等して、いつも人に対する意識が消えないようにする。その上で、なだめたり誉めたりすることを上手に使う「人の言うことを聞いていればいいことばかりだ」というようなことを馬に感じさせる。そうやってカツオといい信頼関係を築ければ自分本位な部分はなくなっていき、焦りやすい性格も後は馴致や馬の気持ちを配慮した扱い、調教によって落ち着いてくると思います。とにかく人との関係作りをきちんと丁寧に進めてゆけば、学生の馬としても非常に向いている性格になると思います。

<フラットワークについて>

調馬索運動は一貫して行っていました。騎乗前に体をほぐすこと、競技馬に適した歩様と筋力作り、落ち着いた一定のペースで走らせることを考えても、競走馬上がりのカツオに調馬索は不可欠だと思いました。焦ってペースが速くなったりきれいな円を描けないことがあったので、原則として円馬場で行いました。また、一時期を除いてサイドレーンを使用していました。カツオは肩や後軀がやや動きにくい傾向がありますがしっかりと動かすためには、まず人が適度の緊張感を与え続けておくことと、声、舌鼓、鞭等の副扶助を効果的に用いること（これはしっかりと動かすためだけでなくいろいろな場面で大切であるが）が第一だと思います。駈歩運動は焦って速くなりやすいので調馬索ではほとんど行いませんでしたが、徐々に騎乗しての駈歩が落ち着いてきたので、夏頃から少しずつ行いました。まだ速くなることがありますが、副扶助に対する反応は良いので大分人が落ち着かせられるようになりました。人のやり方次第で近いうちに速くなることはなくなると思います。

馬場運動では常歩、速歩中心で駈歩は段階を見ながら少しずつ行っていました。乗馬

としては新馬の域で、冬の間は左回転で外に逃げたり少し乗り手のバランスが悪いと焦ったりする傾向がありました。横方向への脚扶助もあまり理解しておらず、当初は大きな図形でも「乗り手から見て、行きたい方向に馬をもってくる」ような重心のバランスに注意しないと思うように曲げられないことがありました。しかし、感覚は敏感で、またそれほどひどい癖も無く、輪線運動や発進、減却、停止の繰り返し、それに横運動の調教の中で着実に進歩し、脚反応も良くなっていました。停止は特に覚えが速かったのか、いつもきれいに四肢をそろえて止まっていました。横運動の調教は長鞭を用いて、徒歩調教での前肢旋回から始めました。その後、もう一人が乗って扶助を与えながらの徒歩調教、騎乗者のみでの調教というように、少しずつ段階を踏んでいきました。斜め横歩も同様に教えていきました。これら横運動の調教は無理をせず、馬が嫌気をささないよう毎日短時間で続けていきました。また体を柔らかくする目的もあって、反対駆歩も行っていました。カツオは調教に対して非常に真面目で飲み込みも速く、前肢旋回を始めたのが3月であったのですが、5～6月には速歩での斜め横歩、反対駆歩をかなりスムーズにこなすようになりました。屈頭に関しては早い時期から安定したものがありましたが、5月頃からバランシングを使うようになりました。8月現在では、銜に対する反抗もそれほど無く、とりあえず順調な状況だと思います。ただ馬のバランスはまだ少し前のめりな感があり、これはペースが速くなりがちが一因にもなっていると思います。これを改善するには基本的なフラットワークを地道に続けていけばよいと思います。また駆歩運動に関しては、始めはかかってきて速くなりやすい傾向がありましたが、フラットワークでの駆歩はシーズンに入ってから徐々に落ち着いていきました。昨シーズン馬場競技の出場はありませんでしたが2課目をたどるだけならそろそろ出来ると思います。

<障害について>

カツオは競走馬時代、障害レースを走っていた馬で、そのためか障害物を物見することはほとんどなく基本的に躊躇なく飛ぶのですが、飛越は前のめり、速くなりがちで経路走行中は特にかかりやすいという特徴をもっていました。

障害の調教は、冬場からキャバレッティーや単一の速歩飛越を行っていました。キャバレッティーはほぼ毎日、障害飛越も馬場状態がよければ週4日くらいやっていました。飛越の前まではゆっくり入れても、飛越後興奮気味になって速くなることがあり、飛越後は必ずえさをやるようにしていました。雪が解けてからはダブル（障害間に横木1本置いて1間歩のもの）、コンビネーション、物の拾い飛び、ジムナスティックと調教を進めていき、半澤杯に向かいました。ジムナスティックや半澤杯前の経路回りでは、初めは走行ペースが速かったのですが、2回3回と繰り返すと少しずつ良くなりました。しかし、半澤杯本番では試合の雰囲気と興奮したのか、練習のとき以上にかかって、猛烈なスピードの走行になってしまいました。このような傾向は少しずつは良くなっていったものの、以降の新緑馬術大会、公認でも目立ちました。試合での走行ペースがようやく落ち着いてきたのは、

7月中旬の市民大会からでした、ただ新緑の前頃から落ち着いたペースで障害に向かえば踏み切りを良く合わせられるようになり、また速いペースの中でも次第に障害を良く見て飛ぶようになり、落下も少なくなってきました。特に現在は後肢を良くたたんで飛ぶようになっています。

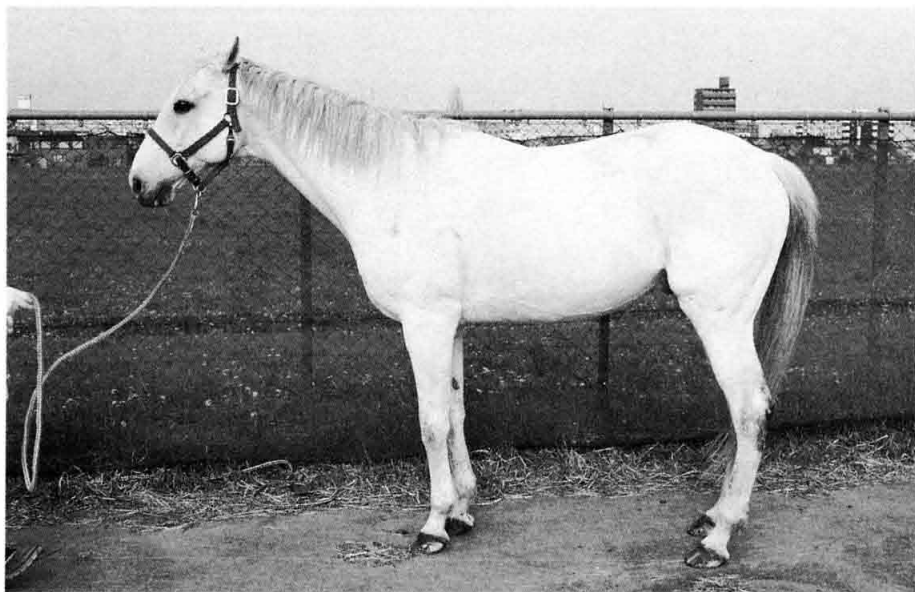
カツオの数少ない苦手障害に、レンガ、ダブル（あるいはそれに似た類の）障害、ステイプルでの飛び降りがあります。ダブルでは新緑、市民大会、北日の本番ないし練習でとまどいが見られました。どの馬でも同じなのかもしれませんが、1番目の障害に入る時、後ろの障害を見ながら向かっていくので、いざ1番目を踏み切る時に合わなかったりしてとまどうのではないかと思います。また、競馬の障害レースにはダブルのようなものはないためとまどっているのかもしれませんが。飛び降りは新緑前のノーザン馴致で苦手だと分かりました。他の野外障害は馬場での障害より一層前のめり、速くなりがちなもの、飛ぶことには全く抵抗を見せなかったのですが、飛び降りだけはどうしても降りませんでした。

ここまで障害に関する問題点等を書きましたが、具体的な策はと問われると自分には特別な解決法は示せません。ただ調教者が馬の特徴、性格を頭に入れつつ、リズム、ペース、バランスや推進などに注意して乗っていれば、基本的な障害練習を繰り返すだけでも、十分成長していくと思います。馬は単純な生き物なのだから、調教にそれほど難しい考え方は必要ないと自分は考えます。

今回の調教報告では、馬体と性格について書かせていただきました。本来調教報告にこのような項目は不適當なのかもしれませんが、特に私達学生が馬を調教する際、この2つを軽視することは出来ないと考えて書きました。

川崎兄はじめ、今までカツオの調教に力を尽くして下さった方々、後輩たち本当にありがとうございました。今後のカツオの活躍、馬術部の活躍を祈っています。

◇ 北斗 (ユウログレイ) ◇



調教報告

井口 大地

僕は調教と呼べるようなことはしていません。馬はもう飛び方が分かっているし、後は私が馬のレベルについていく、という点では他の人よりは楽だったと思います。

フラットワークは左右が硬いので常歩で肩内などの横運動を多めにしてじっくりとほぐしていきました。ただ細かい運動を長くやっていると動きが小さくなってしまうので大きく動かすように意識したらいいいと思います。速歩に関しては歩様も良く一番点の取れるところでしょう。駆歩は前にのめりやすいのでしっかり座り込んで推進することが大事だと思います。

障害に関しては前進氣勢は申し分ありません。本当に障害を飛ぶのが好きなのだなと思います。かなりペースが速く、上手くコントロールしないとリズムがバラバラになり危険です。前にのめりやすいので深く座り込んで、速いペースでも一歩ずつリズムを刻めるように経路を回るのが重要でしょう。

およそ10ヶ月間の付き合いでしたが最初から最後まで馬に教わりっぱなしでした。結局最後まで馬をコントロールできたと言えるレベルには達せず北日の耐久や全日では本当にすまないことをしたと思っています。下手な私でも最後まで飛び続けてくれたユースケ、ありがとう。

あと、メインフィールズの小野さんには最後までお世話になりました。本当にありがとうございました。

◇ リッチステート ◇



入厩報告

大久保 和馬

41 年卒の近藤喜十郎さんの所から預からせていただきました。過去、総合馬術競技で好成績をおさめていました。蟻洞があり、北大に来てからそれが一気に悪化しました。それが原因となって肩を痛めたようで、僕がついた 1 ヶ月以上の間、引き馬と調馬索の生活が続きました。それも回復した今、これからがとても楽しみです。活躍を期待しています。

◇ 北神威（ランフォーローズ）◇

離厩報告

井口 大地

北神威という北大名をつけられ期待されたランフォーローズですが、能力が高いのはみんな分かっていたのですが、前肢のエビのため調教に時間のかかること、また競走馬時代からセン馬だったことから分かるように気性の激しいことなどを見て、学生には乗りこなせない難しい馬だという判断で離厩することになりました。今は恵庭にあるすずらん乗馬クラブというところでのんびり暮らしています。ローズいろいろありがとう。

◇ シュネル ◇

入厩報告

大久保 和馬

シュネル号は11月16日に30年卒部の鎌田さんの紹介で入厩しました。とても元気のいい馬で去勢(11月28日)後も食欲は落ちず、乾草をすぐ食べ尽くしてはおかわりをねだり、普通に飼いを食べさせている今も、寝わらにまで手をつけてしまいます。この元気が競技にも通じてくれると思います。5年目の尾崎兄に見ていただいて運動を始めたばかりです。期待を込めてこれから一緒に頑張っていこうと思います。

◇ ファンキーバブル ◇

入厩報告

山口 剛司

10月1日秋季自馬大会の最終日にノーザンホースパークからこいつはやってきました。父トニービン 母バブルカンパニーという、どうもすごい血統らしいです。性格は物怖じせず何にでも興味を持ち横木もクロスバーも普通に通過します。ただ口癖が悪く、口に何かを含んでいないとうるさく、すぐ噛み付いてきました。

去勢直後、生気が感じられず、まるでゾンビで、引き運動を始めた時、全然歩かないので、お尻を押してもらいながら引き運動をやりました。

今ではすっかり良くなって川崎兄の調教を受けています。

酒・米・タバコ・食料品

宝賀商店

札幌市北区北24条西13丁目

TEL 011-716-3086

卒部にあって

○ 井口大地（前副将・北日幹事）○

私の新歓コンパでの目標は「やめないで4年間続けること」でしたがそれが達成されたばかりでなく全日にまで出られたというのは本当に OB 諸氏、共に歩んだドンパの面々、支えてくれた下級生たち、その他大勢の人々のお陰だと思います。あと、メインフィールズの小野さんには特にお世話になりました。この場を借りて皆さんに御礼申し上げます。皆さんどうも有り難うございました。

あと、現役の皆さんへ。馬は乗り物ではなく、生き物でありパートナーであるということを忘れないで下さい。馬の言葉に耳を傾け、彼らが何を望んでいて自分が今何をすべきか全身で考えてください。馬あってこそ馬術部です。技術の向上も重要ですがそれ以前に愛馬の精神を忘れないようにしてほしいと思います。頑張ってください。

一おもしろくて頼りになる兄だが、キリッとユウグレイに乗る姿はカッコいい、ユウグレイをととても大事にしている。

一練習、作業中は妥協を許さんめっちゃ厳しい兄であるが、もちろんこれは全部馬のため。

ひとたび部室に帰ってくると、お茶目な笑顔で接してくれちゃいます。僕はそんな兄が大好きっす。

一井口兄といえばなんと言ってもビッグマン。その名の通り、酒を愛する笑顔のかわいい、心のでっかい人。

○ 畔柳宏司（前主務）○

勇気 メロンパワーへ

彼はきっとどこにいるのかよくわからなくて

何をするのかよくわからなくて

きっと僕の声も聞こえないんだ

僕はきっとどうしていいかよくわからなくて

誰に見られているのか怖くなって

きっと忘れていたいやなことも思い出してしまうんだ

彼はきっとどうしたのかよくわからなくて

気になって僕を見るんだけどいやになって

きっと泣き出したくなるんだろう

僕はきっとそんな彼が表す気持ちの振動を
悪いほうにうけとって自分の波も荒げてしまって
きっと彼のせいにするんだろう

でも僕は彼を大好きだから
今はまだ彼が勇気を出してくれると信じてるし
きっとその日の彼の行動は全部勇気なんだ

ぼくはきっと彼の肩をそっとたたいて
大満足じゃないけど彼の必死の勇気がうれしくて
めがしが熱くなってもっと彼を大好きになって
知ってる人を見たらくちもとが緩んでしまって
後でビデオを見る必要もないほどすばらしいときだったと思うんだ
彼をもっと大好きになるんだ

これははじめてメロンとノーザンへいった春季馬術大会の1週間前に眠れなくなっ
て考えました。ぼくの3年半はこんなものです。

—メロンPのお父様。メロンPを愛する私は、兄とは夫婦という間柄になるのだろうか・・・。

うーん、お嫁さんにしてくれますか？4年間お疲れ様でした。

—この人は一体何者なのだろう。

今までいろいろ接してきたがその思いは常に離れない。

裏話を聞いてみれば、単なる変な人なのかもしれない、とも思う

○ 竹本和彰（前後援会）○

3年半！・・・

こんな長い間オレは何をやっていたのだろうと思うと、むなしいときはある。けれど、こ
んな長い間、最高の楽しみを与えてくれた。

はじめはなんだかこき使われ、労働基準法の必要性を感じたこともあった。なぜ、お日様
よりも、そして新聞よりも早く起きなければならないんだろうと、目覚まし時計をとめた
こともあった。だけど、こんな経験はもう二度とできないはず。残念だ。・・・けど、もち
ろんもう二度としたくない！

なにが楽しかったかというと、馬に乗ること！？それは違う！！（もちろんそれは楽しか

ったけど) コンパやなにやらそんなことでもない。なんなんだろう??今もよく分からないけど・・・

今更ながら文武両道はムツカシイ。留年が犠牲バントである人もいるが、オレはランナーいないのにやってしまった気がする。

こんどこそがんばって逆転にのぞみをかけたが、ピンチは広がっていく。最終回は孤独かもしれないが、コールドゲームだけはさげたいなあ・・・

みんな一緒だと思うけど、せっかくの馬術部の経験がこの後もいきると信じている!!

—無事に卒部できました。次は卒業ですね。

—彼が目細くしてこっちを見て微笑んでいたら気を付けよう。必ずどこかにトラップが仕掛けられているはず。いつまでもそんな無邪気(?)な兄でいてください。

—北大のいたずら隊長。その発想力の奇抜さは、天才的なものがある。兄の数々の技を語り継いでいきたい。

○ 長田拓郎(前馬匹・車輦) ○

応援してくれた皆さんどうもありがとうございました。

—スズとブーの父にして、嵐のリーダー。飲み会では数々の「名言」を私の心に残してくれた。優しく厳しい、そんな兄に乾杯!!

—嵐を身にまとう男。コンパの日は特に。

○ 森田崇之(前主将) ○

昔の部報にこんな詞を書いた。

『あなたが教えてくれた

うれしい 楽しい やさしい気分

遠い空で ああ 今 同じ気持ちでいるなら

大きな文字で手紙をかくよ “ありがとう”

こんな気持ちで卒部できたらいいと思う・・・』

多分、人生終わるころまで、馬術部で支えてきてくれた人々、そしてたくさんの馬たちに対して、こんな気持ちを持っていられるような馬術部人生でした。

—すごい気合あゝの声は見ている人を圧倒する。あと兄はとっても毒舌を発してくれる。

でもそれがとってもおもしろいです。

—馬に乗るにしても、料理するにしても、何をするにしても “豪快” という言葉がびった

り。その人間の大きさを馬術部を引っ張り盛り上げてきた兄は、我が部には無くいてはならない存在でした。

○ 小野元也（前飼料）○

水産学部だったが1年延びて2年半。

自分が良く見えた事や、今までとまるで違う生活や規律、ドンパや上下のつながり、馬との関わり合いや馬術の面白さ等、プラスとして得たもの。

反面、犠牲にした時間や人ややりたかった事ややるべき事や水産生ゆえに恵まれなかった環境等マイナスのもの。

どちらが大きかったのか簡単に決める事はできない。だがそれらは全て事実で、そして今の自分の事実は馬術と馬を取りまく環境が好きになり、まだ続けたいという事。自分は北水馬術部を復活させる。

最後になりましたが今までお世話になりました市川先生、OB、関係者の方々、先輩方に同期、後輩、そして私達のために頑張ってくれた馬たち、本当にありがとうございました。この恩は一生忘れたくない、と今心から思っています。

一兄は部報などで上の人から“へにゃ”とか“ふにゃ”とか書かれていたけれど、僕らにとってはすごく頼りになる先輩でした。親しく接してくれる一方で、時にはピリッとさせてくれました。函館でも頑張ってください。北水のほうも！

一ホントに函館行っちゃうんですか？また「やっぱりだめでしたー」とか言って部室に現れそうです。馬のために一生懸命な兄は素敵です。

一時に子供のように無邪気に喜び

時に真剣に叱ってくれて

時に親身に相談に乗ってくれて

時にスパークして盛り上げて

いつも馬のことを考えていた、カツオをこよなく愛す兄

兄のいなくなった穴は大きくて、本当に寂しいです。飲み会での兄の名演説を忘れない。

○ 岩波由紀（前記録）○

一年半で、正直馬術部のことをほとんど把握できずに卒部することが残念です。私は馬術部で今まで経験したことが無いことをたくさん経験しました。4年間馬術部を続けることに比べるとそれはほんのささいな事だけれど、私にとって大変大きな一年半でした。お世話になったOBの方々、ありがとうございました。

二年目へ

みんなと一緒に過ごせたことがとてもいい思い出になりました。一気に人数が減って、かなり大変になってしまったけどがんばってね。遠くから応援することしかできないけれど。一年半、迷惑も一杯かけてしまっごめんなさい。本当にありがとう。

—おつかれさま、俺もおまえには疲れた。

—まじめで、いろんなことを深く考えている。なのにボケているのは……。何でだろう。

君が卒部して寂しいよ。小野兄、川辺兄といつでも来てくれ!! まってるよ。

—後輩の事を良く考えてくれる、優しくておもしろい姉。しかも、宇宙とも交信できるし、ユウグレイとシンクロすることもあるスーパーガール。

—この1年半ずっと星と交信してきただけあって、とうとう彼女にも星からお迎えがきたらしい。今度は宇宙船おしよろ丸で旅に出るんだらうか。

内外価格差ゼロの魅力



新入生用3点セット

27000円大率仕

(ヘルメット、ゴム長、キュロット)

是非に利用下さい!

(有) コルトサービス東京

157-0072 世田谷区祖師谷 6-10-8

Home Page Address; <http://home.att.ne.jp/blue/colt-service/index.html>

E-Mail: yfujimot@tke.att.ne.jp FAX 03-3483-2229 TEL 03-3483-2390

部 員 紹 介

4 年 目

● 杉山賢治（主将・文） ●

ついに最上級生になりました。1年目だったのはつい昨日だったような気がしますが・・・馬のため部員のため馬術部のためそして自分自身のために懸命にやります。OBの皆さん、そして下級生、よろしくお願いします。

—彼は主将です。一時は彼の瞳の光線の威力が衰えたとも言われましたが、現在は主将という立場からいろんなところに光線をはりめぐらしている。いつか電池切れになるのでは・・・。
—がんばって！！

● 山本裕己（馬匹、北日幹事・獣医） ●

とうとう最後の1年。悔いを残さぬよう、愛するレジェンドと共にがんばります。目指すは人馬一体。
—最初の印象は怖そうだったけど話している最中見せる笑顔はとて素晴らしい人っぽい。特に人の髪を刈るときは最高に楽しそう。
—静かだけど、実はおもしろくて、笑うとかわいい兄そんな兄と、その背中に顔をこすりつけるレジェンドの光景がとてほほえましくてうらやましいのです。

3 年 目

● 大久保和馬（車両、副務・獣医） ●

—いつも切なそう。
—彼は車を操るときだけはなぜか自信に満ちていた。でも最近はそれも・・・。そんな兄ですがくじけずにがんばってください。
—いつも十分のことを後回しにして様々なことに気を使ってくれ、その頑張りには逆にこっちが心配になってしまうほどです。そんな兄にはぜひ一流の乗り手になってほしい。応援してます。

● 加藤幸作（副将・理） ●

“少年老い易く、学成り難し” 北大に入って一年半が過ぎたというのに未だ僕の学問は花開いていない。父さん母さん、ゴメンナサイ。きっと後期こそは・・・、いや来年こそは・・・。今日も一日が馬術部で始まり、馬術部で終わっていく。

—ひげは剃りましょう。いろいろ大変だけどがんばってね。プライベートでも。

—おおらかで優しい人です。幸作兄が機嫌悪くてムスーっとしているのを見たことがない。

そんな兄は飲み会でよくつぶされて、落書き帳と化していて、ちょっと情けない。でも、箱番長でOK板をかざす時の兄はとてにかっこいいです。

● 国井千恵子（主務・獣医） ●

今までただ馬乗りが楽しくてやってきたが、気づけば主務なぞになってたり1頭馬を面倒見てたりして、責任の大きさが私の許容能力を超えそうな勢いです。

まあ、なんとかぎりぎりかつかつやっていこうかな、あと2年弱だ。

—国井姉は非常に頼りになる人です。私だけでなく誰もが姉に頼もしさを感じているはず。

とにかく姉は普段も、そして酒にも強いのです。

—主務になられてからはおそらく一番部室滞在時間が長いと思われます。日々多忙のため少し変わった眼鏡をかけていますが、眼鏡をとると全くの別人です。馬場では恐い口調になることもありますが、普段の存在感はともあります。

● 堀内太郎（馬備、作業・農） ●

これまで馬術部に入部して以来2年間、いろいろなことがあり、いろいろな変化があったけど、馬に乗りたい、上手くなりたい、その気持ちは変わりません。

—無口。でも、嬉しい時には、はにかみ（ニヤニヤ？）しながら話すタロー。かわいい奴め。

—彼は土偶です。口がボーっと開いています。



こんな感じです。
でもイイ奴です。

● 山口剛司（飼料・理） ●

トルネードに乗れることになりました。よろしくお願いします。

—目がやばい。藁でもやってそんな感じ。人生に疲れたって感じ。

—ぐちぐち、ぼそぼそ言うからあまり目立たないけど実はけっこう一毒舌家。

● 吉川幸江（後援会、会計・文） ●

たくさんの人に支えられてきています。
本当にありがとうございます。
強く、たくましく生きたいと思います。
いつも、“うれしい、楽しい、大好き！！”と
思えるように、辛い時も乗り切ります。
これからも、よろしくお願いします。

—その小さな体には似ても似つかないほどエネルギッシュ。姉のそばにいと、こっちま
で頑張ろうという気になってしまいます。

2年目

● 木村滋之（薬品・農） ●

新歓コンパで言った2つの目標を達成できるようにがんばります。

—馬のことをすごくよく考えている。馬術部のホープ。コトバでは説明のしようの無いお
もしろさをあわせもつ。実はけっこう毒舌家。ひそかにこいつはすごい、と思っていま
す。ガンバレ、しげ！！
—まじめで一生懸命なんだけど実はかなりボケてます。そんなことがかわいいのよね。

● 佐賀由美子（記録・獣医） ●

私は人間だ。ちっちゃい頃はたぬきだったが今は人間だ。しかし最近、馬場にいる時以
外は食っちゃ寝しかしていないので、たぬきのようなお腹に逆戻りかもしれない。やばい
なあと思いつつ、気が付いたら昼寝をしていたりする今日この頃である。

—不思議だ・・・。
—彼女は時々男と間違われる。馬の乗り方もちよつとごつつい。あんまり馬術部に染まっ
てごつつくなったらイカンよ。
—良く寝る子です。寝る子は育つ。
—けっこうまじめですが・・・がんばれ獣医の卵！！

● 高島渉（部報、副務・水産） ●

函館に行って、小野兄の後を継ぎます！

行けるのか？ 行けるはずだ。（たぶん）。というわけで勉強します。

―忠夫じゃないよ、渉だよ。

● 武井亮（飼料、企画・獣医） ●

椎名林檎と結婚します。

―変な奴。見ていて本当にあきない。これから部を引っ張っていくのは間違いないだろう。
がんばってくれ。

―口は軽いけどいい奴だと思う。

―騒いで手のつけられないことも多いが、いざという時には案外頼れる奴である。と思いたい。

―声がでかくて押しが強い。怪しい教主になれそうかも。

と、思いきや以外に気弱。細かい事に気を病んだりしてかわいい奴かも。

なーんて、実は人をなめきった腹黒い奴だったりして・・・

● 竹田敏宏（庶務・獣医） ●

北海道に初めて住んだ。

春に風が吹いた。まだ冬だと思った。

夏に風が吹いた。秋風の匂いがした。

秋に風が吹いた。真冬のように寒かった。

そんな北海道に冬も来るらしい。

こんなすばらしい北海道にあと何年住むことになるのだろうか。

馬術部に入って日は浅いが、充実した（とても忙しい）毎日を送っている。

今の生活から馬がいなくなると・・・そんなこと考えたくもない。

そう思って日々過ごしています。

―猫かぶってそうだね。その笑顔の下の本性が現れたらと思うと恐ろしい。今年は世紀末だ。

―パソコン隊長として、日々庶務の仕事をこなしています。ガンバレ！でもそのキレイやすい所をもうちょっと何とかしましょう。

● 寺島良（作業、馬備） ●

はっきり言って馬と接して、馬に乗りたいがために北海道に来ました。はやく上手くなって試合に出たい。

—最初私は人を外見で判断してはいけないと自分に言い聞かせていた。しかし、彼の場合は見たまんま判断しても全然OKであった。

—とにかく基礎体力が違う。まだ十代の彼は、野球部だったらしく見た目以上に weight がある。しかし体が硬いらしい。力仕事では一番頼りになる一年目です。

—いかにも野球少年！それが彼の第一印象。それくらい太陽のにおいのするさわやか系の男の子だった。だった。だったのになー。

あくまでも過去形になってしまった今日この頃である。

馬と畑の有機的関係の確立を！

野菜の新しい生産と流通を模索する。

上田農園

上田正徳



〒003-0876 札幌市白石区東米里2072-1

TEL 011-874-3272

FAX 011-873-2307

CELLULAR 090-3-891-4988

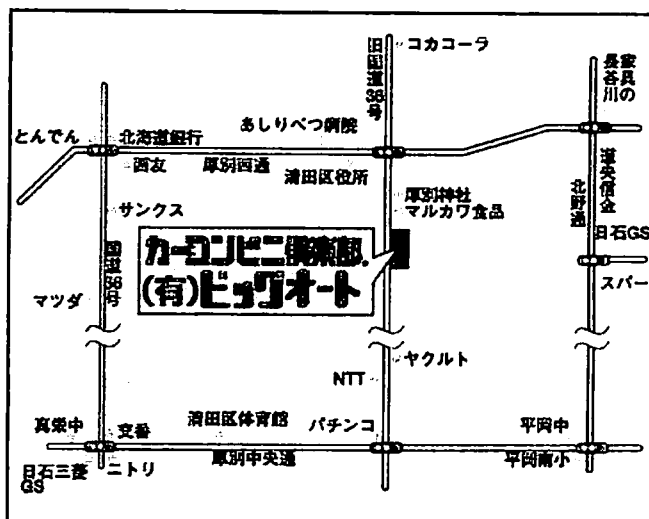
ファームレストラン ・ うえだ



愛車のキズ・へコミを

最短45分～で直しちゃおう!

学生さんに
朗報!



Tel.011-888-6888

Fax.011-886-2042

〒004-0871 札幌市清田区平岡2条2丁目1番55号

営業時間：8:30～20:00 休業日：日曜日・祝日（日・祝受付のみ可）



もう乗り越えどろ。



移行期さうまく乗り越えられれば、もっともっと……。

移行期管理に関するご相談は、是非養牛用飼料専門メーカーである明治飼糧にお任せ下さい。
弊社では、お客様個別の現場事情にあわせた移行期管理方法をご提案させていただきます。

お問い合わせは、最寄りの弊社支店・営業所、または下記のフリーダイヤルまで。

明治飼糧株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-20-4

☎ 0120-49-9141



編集後記

4 月発行を予定しながら、締め切りを半年も過ぎてしまい今さらながら自分の無計画さ、責任感の無さを痛感しています。原稿を書いていただいた、市川部長、松井さん、部員の皆さん、そして部報の到着をお待ちになっていた各 OB、広告主の皆様には大変申し訳なく思っております。今後はこのような事の無いよう自分の経験を踏まえ、後輩に引き継ぎたいと思います。

内容としてはほぼ例年と同様ですが、発行の遅れに伴い実情と合わない個所があると思いますが御了承願います。また成績は昨年よりも若干詳しく記載しました。その他についても見やすい紙面を心掛けたつもりですが、何かお気付きの点などがありましたら、是非ご連絡をいただきたいと思います。今後の部報作りの大切な資料にさせていただきます。

最後になりましたが、こんな自分のために協力して下さった皆様どうもありがとうございました。

部報担当 高島 渉

平成 13 年 10 月発行

発行者 北海道大学馬術部

〒001-0023

札幌市北区北 23 条西 12 丁目

北海道大学馬術部

TEL/FAX (011) 737-1626

印刷所 北大印刷

